鹿児島大学大学院　理工学研究科

グローバル人材育成支援室・Global Development Office

平成２７年度・平成２８年度　活動報告書

Annual Report 2015・2016

平成 29 年 4 月 1 日
鹿児島大学大学院　理工学研究科
グローバル人材育成支援室

グローバル人材育成支援室・Global Development Office

ミッションステートメント:
鹿児島大学理工学研究科の学生と教員をグローバル人材になるため支援。

方法：
1. 海外研修の計画を発展する
2. 海外研修支援
   - 理工学研究科の海外研修支援（準備など）
   - 個人的な海外研修の相談（ビザ、生活など）
   - 教員と学生係に留学生サポートの支援
3. ランゲージサポート
   - 英語学習サポート、イングリッシュワークショップなど
   - 理工系英語論文の校閲・発表支援
   - 理工学研究科内の英語事務通信支援
   - 理工学研究科内の国際交流支援

グローバル人材育成支援室のメンバー：

平成２８年度の室長
小山佳一　教授
物理・宇宙専攻

平成２７年度の室長
平成２８年度の副室長
木方十根　教授
建築学専攻

特任助教：Bo Causer
教育専門（英語）

特任助教：藤崎文乃
学生係専門

グローバル人材育成支援室：

ここに英語で交流ができる。リフレッシュ時間で英語本を読める、英語ゲームを遊べる、英語でチャットができる。グローバル人材になるために、色々な相談を聞きてもいいです。コーヒー、紅茶もごゆくり飲んで下さい。

はじめに:

本報告書は、鹿児島大学大学院理工学研究科グローバル人材育成支援室（以下支援室）で平成 27-28 年度に行った活動を報告するものです。

平成 26 年度に支援室設置準備室を設け、近藤研究科長のリーダーシップのもと木方室長と 2 名の支援室特任助教、事務職員らが一丸となって短期留学プログラムを開発し、平成 27 年度に「大学院理工系イノベーションプログラム海外研修：GOES プログラム」として、第 1 期生 13 名をアメリカ・カルフォルニアに派遣することができました。

平成 28 年度はさらに、ノースダコタやニューヨークでの海外研修プログラムも準備、夏プログラムだけではなく冬プログラムも準備しました。一方で、支払いや現地サポートにおける大学生協との提携や、鹿児島大学グローバルセンターとの連携なども進めてきました。日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度申請だけでなく、鹿児島大学学生海外研修支援事業、鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業などにも申請し、採択されました。こうして、第 2 期生となる 16 名の大学院生がアメリカ研修を行い、全員無事帰国することができました。

平成 29 年 2 月に発行された「平成 27・28 年度参加学生感想文集」を読むと、約 3 ヶ月の研修期間ではありますが、各学生が、英語力向上、現地企業研修、研究室研修、アメリカ生活、異文化交流など充実した研修を行ってきたことがわかり、本プログラムが成功していると確信しています。しかし、このプログラムを実施するにあたり、全てが順調に進んだわけではありません。幾つかの問題が発生した都度、支援室全員でその解決策を模索し、多くの皆様のご協力でなんとか乗り越えてきました。本報告書は、この 2 年間、このプログラムを準備・実施・フォローする過程等を中心にできるだけ詳細に記録しました。この報告書が本プログラムのさらなる発展に活かされ、グローバルな視点をもった理工系人材育成に大いに寄与することを期待しています。

これまで GOES プログラムにご賛同、ご協力、ご支援をいただいた鹿児島大学、理工学研究科各位と米国で学生指導していただいた大学・企業等の皆様にお礼を申し上げるとともに、今後も本プログラムへのご助言、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成 29 年 3 月

理工学研究科グローバル人材育成支援室
室長　教授　小山佳一

p. 5-30　　平成２７年度グローバル人材育成支援室活動報告書
目次:
p. 5-7 …… 活動経過
p. 8-12 …… 平成２７年度現地調査
p. 13-22 …… 平成２７年度 GOES 海外研修サポート
p. 23-26 …… 平成２８年度 GOES 海外研修の募集
p. 27 …… 英語学習支援
p. 28-29 …… グローバル人材育成
p. 30-31 …… 平成２７年度 GOES 海外研修参加学生状況

p. 33-55　　平成２８年度グローバル人材育成支援室活動報告書
目次:
p. 33-35 …… 活動経過
p. 36-37 …… 平成２８年度現地調査
p. 37-42 …… 平成２８年度 GOES 海外研修計画
p. 42-48 …… 平成２８年度 GOES 海外研修サポート
p. 48-51 …… 平成２９年度 GOES 海外研修の募集
p. 51-52 …… 英語学習支援
p. 53-54 …… グローバル人材育成
p. 55-56 …… 平成２８年度 GOES 海外研修参加学生状況

p. 57-65 平成２７年度・平成２８年度理工系国際コミュニケーション授業レポート

鹿児島大学大学院　理工学研究科

グローバル人材育成支援室・Global Development Office

平成２７年度活動報告書

1．活動経過

平成２７年度グローバル人材育成室活動		
４月	平成２７年度 GOES	サンディエゴのオリエンテーションの内容作成 GOES 事前準備：参加者の英語学習・海外研修ガイダンス 海外研修サポートの内容作成
５月	平成２７年度 GOES	GOES 事前準備：参加者の英語学習・海外研修ガイダンス 海外研修サポートの内容作成 グローバル人材育成支援室運営会議
	他	建築：タスケギー大学交流会サポート 化学生命：リヨン大学の留学サポート
６月	平成２７年度 GOES	サンノゼ研修サポート サンディエゴのオリエンテーション準備とオリエンテーション サンディエゴ研修サポート 任意（ボランティア）職務体験合意書
７月	平成２７年度 GOES	サンノゼ研修サポート サンディエゴ研修サポート 任意（ボランティア）職務体験合意書
	平成２８年度 GOES	第一回 GOES２０１６説明会 近藤・藤崎・コーザー：カリフォルニア州現地調査

８月	平成２７年度 GOES	サンノゼ研修サポート サンディエゴ研修サポート 任意（ボランティア）職務体験合意書
９月	平成２７年度 GOES	サンノゼ研修サポート サンディエゴ研修サポート GOES２０１５学生のフォローアップ準備
	平成２８年度 GOES	GOES２０１６JASSO 申請 企業研修の準備 木方：ノースダコタ州・カリフォルニア州現地調査 生協提携準備
10 月	平成２７年度 GOES	GOES２０１５学生のフォローアップ GOES２０１５学生発表会
10 月	平成２８年度 GOES	トビタテカウンセリング 英語ワークショップ GOES パンフレット作り GOES２０１６予定作り ノースダコタ研修の準備 グアム研修の調査
	他	建築：SDSU 中村先生のレクチャー　サポート 理工学研究科：EURAXESS イベント GDO：英語 Web ラーニング調査準備　（深川） 理工学研究科：TOEIC・E-learning
11 月	平成２７年度 GOES	GOES２０１５学生のフォローアップ：　TOEIC グローバル人材育成支援室運営会議
	平成２８年度 GOES	英語ワークショップ GOES パンフレット作り GOES２０１６予定作り 企業研修の準備 ノースダコタ研修の準備 生協提携準備
	他	GDO：英語 Web ラーニング調査（深川） 理工学研究科：TOEIC・E-learning 建築：客員教育英語サポート　（マーク・クラプソン） 建築：客員教育英語サポート　（エドアード・エンドリアント）

12 月	平成２７年度 GOES	学生の海外研修ビデオを作成し、学生交流プラザで放映（約３週間）
	平成２７年度 GOES	英語ワークショップ GOES２０１６予定作り 生協提携準備 第二回 GOES２０１６説明会 企業研修の準備 GOES２０１６申し込みと締め切り
	他	GDO：英語 Web ラーニング調査　（深川） TOEIC・E-learning GLOCOL 海外研修作りセミナー（大阪）
平成２８年度グローバル人材育成室活動		
１月	平成２８年度 GOES	英語ワークショップ GOES２０１６予定作り 生協提携準備 GOES２０１６参加希望者面接 GOES２０１５＆２０１６懇親会
	平成２７年度 GOES	第一回理工学研究科 GOES２０１５＆２０１６懇親会
	他	鹿児島大学・鹿児島県：清華大学交流会サポート
２月	平成２８年度 GOES	GOES２０１６カリフォルニア参加希望者説明会 GOES ノースダコタ・ニューヨーク海外研修予定準備
３月	平成２８年度 GOES	サンノゼ・サンディエゴ・ニューヨーク研修現地調査 GOES２０１６ノースダコタ・ニューヨーク参加希望者面接 GOES２０１６カリフォルニア州参加希望者説明会
	他	リヨン大学交流会 留学生サポート

2. 平成２７年度現地調査

- ６月：サンノゼ・サンディエゴ：コーザー
- ６月：サンディエゴ：木方、コーザー、藤崎
- ７月：サンディエゴ・サンノゼ：近藤、藤崎、コーザー
- ８月：サンディエゴ：コーザー
- ９月：ノースダコタ・サンディエゴ：木方
- ９月：サンノゼ：藤崎
- ３月：サンノゼ・サンディエゴ・ニューヨーク：小山、コーザー、近藤、木方、藤崎

６月：サンノゼ・サンディエゴ：コーザー

６月７日（日）	鹿児島からサンノゼへ学生と移動 サンノゼ州立大学附属語学学校 International Gateways に学生が登録 大学寮 International House について説明
６月８日（月）	学生と語学学校が行う街巡りツアーに参加 サンノゼ州立大学学生番号カードに関し大学から学生に支援
６月９日（火）	学生食堂利用に関する説明 鹿児島大学北米センターの先生と打ち合わせ
６月 10 日（水）	鹿児島大学北米センターの現地アパートの窓が取り替える。取り付け工事を検した
６月 11 日（木）	参加学生に対する最後の現地説明会
６月 12 日（金） ～ ６月 13 日（土）	ロスアンゼルスに移動 Digital Media & Learning コンファレンスに参加
６月 14 日（日）	サンディエゴへ移動
６月 15 日（土） ～ ６月 20 日（土）	サンディエゴで行うオリエンテーションの準備

6月：サンディエゴ：木方、コーザー、藤崎（オリエンテーション）

6月21日（日）	学生が藤崎、木方と共にサンディエゴ到着
6月22日（月）	オリエンテーション：サンディエゴ州立大学キャンパスツアー キー・ムーン先生、ドノバン・ゲーガと打ち合わせ
6月23日（火）	オリエンテーション：生活活動・交通・買い物などについて
6月24日（水）	オリエンテーション：サンディエゴ市ツアー・サンディエゴ　ティファナ日本協会 森氏と打ち合わせ（現地支援）
6月25日（木）	オリエンテーション：ラホーヤ，ソーク研究所
6月26日（金）	オリエンテーション：バルボアパーク ALIに打ち合わせ
6月27日（土）	サンディエゴ出発
6月28日（日）	日本到着

7月：サンディエゴ・サンノゼ：近藤、藤崎、コーザー

7月23日（木）	鹿児島からサンディエゴまで移動（コーザー）
7月24日（金）	学生支援、Donovan Geigerと打ち合わせ
7月25日（土）	学生支援
7月26日（日）	鹿児島からサンディエゴまで移動する（近藤　英二、藤崎　文乃）
	サンディエゴ・テファナ協会の鈴木氏と打ち合わせ
7月27日（月）	Donovan Geigerと打ち合わせ ムーン先生と打ち合わせ 森氏、学生交流会
7月28日（火）	RNT建築家・サンディエゴ州立大学の中村先生と打ち合わせ サンノゼへ移動する
7月29日（水）	Summer In Silicon Valley参加学生とComputer Science Museum見学 AZUSA若井氏と打ち合わせ、企業訪問ツアー 学生と交流
7月30日（木）	Richard Chung, Sarah McGregor，と打ち合わせ Andrew Hsu工学部長と打ち合わせ
7月31日（金）	Summer In Silicon Valley学生発表会 Summer In Silicon Valley卒業式
8月1日（土）	サンフランシスコへ移動、サンフランシスコ出発
8月2日（日）	日本到着

8月：サンディエゴ：コーザー

8月8日（日）	サンディエゴ到着
8月09日（月）	学生支援
8月10日（火）	学生と打ち合わせ
8月11日（水）	学生支援、Donovan Geiger と打ち合わせ
8月13日（木）	学生支援、森氏と打ち合わせ
8月14日（金）	学生支援、ムーン先生と打ち合わせ
8月15日（土）	学生支援
8月16日（日）	学生支援
8月17日（月）	学生と打ち合わせ

8月：サンディエゴ：コーザー

8月18日（火）	学生支援
8月19日（水）	学生支援、森さんと打ち合わせ
8月20日（木）	学生と打ち合わせ、Donovan Geiger と打ち合わせ
8月21日（金）	サンディエゴからサンノゼへ移動 若井氏と打ち合わせ；企業研修ツアー
8月22日（土）	学生と打ち合わせ
8月23日（日）	学生支援、サンノゼからサンフランシスコへ移動
8月24日（月）	サンフランシスコ出発
8月25日（火）	日本到着

9月：ノースダコタ・サンディエゴ：木方

ノースダコタ州立大学現地視察調査

本現地視察調査では、海外研修の実施準備に向けて、ノースダコタ州立大学国際交流担当学長補佐のカリダス・シェティー教授と面会したほか、同大学工学部の土木・環境工学部、生産工学部、コンピューター科学部、同建築学部、および同大学の現代言語学部の英語教育担当者を訪問し、教育・研究内容の確認や施設の状況、学生の研究参加の可能性や、滞在先に関する情報提示などの点について担当教員や事務担当者や担当教員と協議を行った。また週末には大学が立地するノースダコタ州ファーゴ、および隣接するミネソタ州ムアーヘッドの市街地の公共施設や交通機関，利便施設等の視察を行った。

・調査期間：平成27年9月17日（木）～平成27年9月21日（月）

・訪問都市：アメリカ合衆国ノースダコタ州ファーゴ、ミネソタ州ムアーヘッド

・　訪問先：ノースダコタ州立大学農学部，同工学部，同大学建築学部，同大学現代言語学部 ・　面会者：農学部：Kalidas Shetty, Ph.D. , Dipayan Sarkar Ph.D.　工学部：Kendall, Nygard Ph.D. (Department of Computer Science), Om Yadav, Ph.D. (Department of Industrial and Manufacturing Engineering), Eakalak Khan, Ph.D. P.E. (Department of Civil and Environmental Engineering)　建築学：David Bertolini Ph.D. (Department of Architecture and Landscape Architecture)　現代言語学部：Carol Bishop (Intensive English Language Program Coordinator, Department of Modern Languages)
サンディエゴ現地視察 　現地では、サンディエゴにおける学生研修先を訪問し、学生の研修の状況を把握するとともに、研修先の監督者と面会し、研修の実施に関する課題について聞き取りを行った。そのほかサンディエゴ在住の交流大使・森典之氏の周旋により、サンディエゴにおける企業研修の候補企業を訪問し、我々のプログラムの説明、および研修受入についての協議を行った。 　最終日にはサンディエゴ国際空港にて、サンノゼで研修を行っている学生とも合流し、全研修生を引率して帰国した。 ・調査期間：平成 27 年 9 月 21 日（月）～平成 27 年 9 月 27 日（日） ・訪問都市：アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ ・　訪問先：サンディエゴ州立大学工学部，同大学美術学部，Fleet Science Center, KPFF Consulting Engineers Inc., Roesling Nakamura Terada Architects , Hokto Kinoko Company 面会者：工学部：Mr. Donovan Geiger, (Student Services Coordinator), Professor Kee Moon (Faculty of Engineering) 美術学部：　Professor Kotaro Nakamura（School of Art and Design, College of Professional Studies and Fine Art）, RH Fleet Science Center：Ashanti Davis (Lead Tinkering Studio Coordinator), KPFF Consulting Engineers, Inc.：Farid Mohseni (Managing Principal), Hokto Kinoko Company

９月：サンノゼ：藤崎

９月６日（日）	移動日（鹿児島からサンディエゴへ移動）
９月７日（月）	学生支援
９月８日（火）	在サンディエゴ留学紹介業者（YES International）訪問（情報収集） Panasonic Appliances Refrigeration Systems Corporation of America 会社訪問（就業体験研修における学生受入の協議）
９月９日（水）	学生支援、学生就業体験研修先 Science Fleet Museum 訪問

9 月 10 日（木）	移動日（サンディエゴからサンノゼへ移動）、 学生就業体験研修先 Kawasaki Robotics(USA)訪問
9 月 11 日（金）	学生就業体験研修先 TOYOTA INFOTECNOLOGY CENTER 訪問 学生就業体験研修先 Systena America 訪問
9 月 12 日（土）	学生支援、本学 P-SEG 海外研修基礎コース見学
9 月 13 日（日）	サンノゼ滞在学生（3 名）引率、日本帰国

3 月：サンノゼ・サンディエゴ・ニューヨーク：小山、コーザー、近藤、木方、藤崎

3 月 24 日（木）	鹿児島からサンノゼまで移動 サンノゼ州立大学附属語学学校 International Gateways に打ち合わせ AZUSA 若井氏と打ち合わせ サンディエゴに移動（小山・コーザー）
3 月 25 日（金）	中村先生と打ち合わせ サンディエゴ州立大学: キー・ムーン先生、ドノバン・ゲーガと打ち合わせ ALI に打ち合わせ （小山・コーザー）
3 月 26 日（土）	森さんと打ち合わせ 現地調査：バルボアパーク、シーポートビレジ サンフランシスコに移動（小山・コーザー）
	鹿児島からニューヨークに移動（藤崎・木方・近藤）
3 月 27 日（日）	現地調査：学生滞在先周辺、Kolping House （藤崎・木方・近藤）
	ニューヨークに移動（小山・コーザー）
3 月 28 日（月）	州立ニューヨーク・シティ大学付属語学学校に打ち合わせ 現地調査：マンハッタン・地下鉄など
3 月 29 日（火）	州立ニューヨーク・シティ大学 Spitzer School of Architecture に打ち合わせ 州立　ニューヨーク・シティ大学 Grove School of Engineering に打ち合わせ 現地調査：生活活動
3 月 30 日（水）	ニューヨーク出発
3 月 31 日（木）	日本到着

平成 27 年 4 月 10 日
鹿児島大学院理工学研究科
グローバル人材育成支援室

学生海外研修プログラム計画書

研修名	Graduate Overseas Engineering and Science Studies for Innovation (GOES) 大学院理工系イノベーション海外研修プログラム
担当者（職・氏名）	理工学研究科　研究科長　　近藤英二（機械工学） 副研究科長　木方十根（建築学）
訪問先（国・機関等）	・アメリカ合衆国　カリフォルニア州　サンノゼ州立大学工学部（本学協定校） ・サンノゼ州立大学付属語学学校 International Gateways(語学研修先) ・就業研修先　在シリコンバレー日系企業
行　　程	裏面のとおり
趣旨・目的	本学協定校のあるカリフォルニア州サンノゼ州立大学での理工系の実践的教育プログラムと語学研修、および現地企業での研修を通じ、国際社会で活躍できる将来性豊かな理工系人材の育成をする。このプログラムでは、参加の大学院生が国際コミュニケーションを通して、グローバルな理工系の課題・解決に取り組み、彼らが将来、国際社会で活躍する技術者･研究者を目指し､グローバルに実践活動するための経験を養うことを目的とする。
研修計画	【全体構成計画】 (1)語学研修（研修期間：5 週間） ･サンノゼ州立大学付属の語学学校(International Gateways)において､Academic English コースを受講する。 英語力の向上を目指した授業を世界中から集まる学生達と一緒に学ぶ。 ･語学力に留まらず､文化の違いを意識したスキルを習得する。 (2)シリコンバレープログラム（研修期間：3 週間） ・サンノゼ州立大学工学部が主催する国際的なシリコンバレープログラムに参加する。ここでは、世界から集まる多国籍な理工系の学生達とともにグループワークとしてプロジェクト課題に取り組む。最後にはコンテストが行われ、プロジェクト課題についてのプレゼンテーションを行う。 (3)現地企業における就業研修（研修期間：6 週間） ・シリコンバレーにある日系企業等において、技術系リサーチ、市場調査などといった基礎的な業務に関する研修を原則英語によって行う。
その他	【参加学年・人数】 ・理工学研究科大学院 1 年生　4 名（内 1 名はシリコンバレープログラム終了後インドネシアへ移動） 【企業体験研修先の確保】 ・現地にある日系企業を紹介する業者を通じ研修先企業を確保する。 【学生の滞在先】 ・語学研修、シリコンバレープログラムの期間中は、サンノゼ州立大学の大学寮（インターナショナルハウス）に滞在。 ・企業体験研修の期間は、現地にある日系企業を紹介する業者を通じ、研修先の近辺にあるシェアハウスに滞在。 【学生の渡航ビザ】・滞在日数が 99 日と長期滞在になるため、参加学生は学生ビザを取得する。
問合先	理工学研究科　グローバル人材育成支援室 藤崎　文乃、ボウ・コーザー 電話番号：099-285-3060　E-mail:globaljinzai@eng.kagoshima-u.ac.jp

平成 27 年 4 月 10 日

サンノゼ　海外研修日程表

日数	月　日 曜日	都市名	滞在	摘　　要
1	6 月 7 日（日）	移動日		鹿児島からサンノゼへ移動
2 ～ 34	6 月 8 日（月） ～ 7 月 10 日（金）	サンノゼ	大学寮	語学研修 サンノゼ州立大学付属語学学校 International Gateways
36 ～ 56	7 月 12 日（日） ～ 8 月 1 日（土）	サンノゼ		サンノゼ州立大学工学部 シリコンバレープログラム
58 ～ 97	8 月 3 日（月） ～ 9 月 11 日（金）	サンノゼ	シェア ハウス	就業研修 在シリコンバレー日系企業
99	9 月 13 日（日）	移動日		サンノゼから鹿児島へ移動
100	9 月 14 日（月）	移動日		鹿児島到着

GOES Study	Graduate Overseas Engineering & Science Study – San Diego Global Development Office: Kagoshima University Graduate School of Science and Engineering 099-285-3060 globaljinzai@eng.kagoshima-u.ac.jp (contact: Ayano Fujisaki/Bo Causer)
Supervisors	Dr. Eiji Kondo, Dean, Graduate School of Science and Engineering (Mechanical Engineering) Dr. Junne Kikata, Vice Dean, Graduate School of Science and Engineering (Architectural Engineering)
Location	San Diego, California USA San Diego State University、American Language Institute (ALI: SDSU language school) Volunteer Experience: various museums/labs in San Diego OR Japanese companies in San Diego or San Jose.
Itinerary	June 2015 ~ September 2015 (4 months) *See Appendix 1 for details*
Aims	To develop language and practical science and engineering skills in partnership with San Diego State University. To develop professional skills through volunteering at local institutions and companies, with the aim of developing a global outlook in their field. To develop in students the aim, as professional scientists and engineers, to apply their problem solving skills to the advancement of the international community.
Program	1. Orientation (Kagoshima University) - ***1 week (9 students)*** 2. ALI Intensive English for Communication - ***6 weeks (9 students)*** *3.* San Diego State University Robotic Lab Experience (Dr. Kee Moon) - ***2 weeks (9 students)*** 4. Volunteer Experience at local Japanese companies or local museums - ***7 weeks (6 students)*** 5. Volunteer Experience at Japanese companies in San Jose – ***7 weeks (3 students)*** *See Appendix for details*
Notes	• Student accommodation will primarily be homestays arranged through ALI, however, during the volunteer experience students remaining in San Diego may stay in student apartments arranged by SDSU College of Engineering, International Programs. • Students will apply for an F-1 Student Visa

GOES Study	Graduate Overseas Engineering & Science Study – San Jose Global Development Office: Kagoshima University Graduate School of Science and Engineering 099-285-3060 globaljinzai@eng.kagoshima-u.ac.jp (contact: Ayano Fujisaki/Bo Causer)
Supervisors	Dr. Eiji Kondo, Dean, Graduate School of Science and Engineering (Mechanical Engineering) Dr. Junne Kikata, Vice Dean, Graduate School of Science and Engineering (Architectural Engineering)
Location	San Jose, California USA San Jose State University、i-Gateways (SJSU language school) Volunteer Experience: various Japanese companies in Silicon Valley
Itinerary	June 2015 ~ September 2015 (4 months) *See Appendix 1 for details*
Aims	• To develop language and practical science and engineering skills in partnership with Kagoshima University's partner institute, San Jose State University. • To develop professional skills through work training at local companies, with the aim of developing a global outlook in their field. • To develop in students the aim, as professional scientists and engineers, to apply their problem solving skills to the advancement of the international community.
Program	1. Academic English program (iGateways, SJSU) - ***5 weeks*** 2. Summer in Silicon Valley (Charles W. Davidson College of Engineering, SJSU) - ***3 weeks*** *3.* English Support program (iGateways, SJSU) - ***2 weeks*** 4. Volunteer Experience at local Japanese companies- ***7 weeks*** *See Appendix for details*
Notes	• Students: There will be four Kagoshima University Graduate School of Science and Engineering Masters' Course 1st year students participating in the program (entry April 2015). • Student accommodation will be arranged through iGateways. During the volunteer experience students will stay in student housing arranged by an outside party • Students will apply for an F-1 Student Visa

3.2 GOES 海外研修事前準備

平成２６年度の年次報告書に記載されている内容と重複している内容があるので、本報告書では平成２７年度の変更及び要点を中心に記載する。GOES 海外研修に参加する学生が英語ゼミや事前準備会に参加した。事前準備会は週１回行い、その内容は海外へ行くための書類作成や危機管理情報などである。英語ゼミでは、学生は 4 人のグループに分けられ、各グループが集まる頻度を決めた。週に 1 回、英語教師と会うグループ、週に２回、英語教師と会うグループ、週に 1 回英語教師と会い週に 1 回学生のだけ集まるグループの３つに分かれた。学生の８割ぐらいが予定通りにプログラムを進めたが、週に１回会う学生グループはほとんど英語教師がいる時だけに会った。すべてのグループは、一人ずつ英語の学習課題を選んだ。英語の学習には、英語ビデオや音楽を聞、You-Tube で英語授業を見る、グローバル人材育成室で英語の本を読むなどであった。学生３割ぐらいが一貫して英語の学習課題をクリアした（ただし自己申告）。英語ゼミの内容は日常生活に当たる英語句、危機管理英語、文化関係英語（理由の説明方法；頼むことの肝要など）である。学生の英語能力を評価するために、海外研修を行う１ヶ月前に、TOEIC 試験を行った。（結果は英語でこの活動報告書の最後に説明する。）以上のように、学生が海外研修に行く前に準備した。

3.3 GOES 海外研修現地支援：サンノゼ支援：6 月 7 日～9 月 20 日

GOES サンノゼ海外研修の参加者は４名だった。本研修は GOES サンディエゴ海外研修より２週間早く行った。移動などの支援のため、グローバル人材育成室特任助教一人が学生の引率を行った。クオーターシステムのために、サンノゼ州立大学附属語学学校 International Gateways のコースに１週間遅れで参加した。語学学校のスタッフに歓迎してもらい入学の支援も問題はなかった。寮に入る支援も問題はなかった。しかし、学生食堂利用の事で問題が発生した。語学学校がサンノゼ州立大学食堂に昼食・夕食頼んだが、夏休み中で食堂も休み中だった。そのため食堂のスタッフが全部の食事を同じ内容で作った：サンドイッチやサラダ、ポテトチップス、ジュースだった。暖かい食事はなかった。語学学校の学長がこの食事の問題を解決してくれた。方法として学生にミールカードを作った。そして、大学の食堂やレストラン全部で、自由に、食べ物を好きに買えるようになった。それ以外に問題はなかった。グローバル人材育成室特任助教が着いた 5 日後、サンディエゴへ移動した。

その後、GOES サンノゼの学生が５週間でサンノゼ州立大学附属語学学校 International Gateways のコースに参加した。7 月 13 日からは、サンノゼ州立大学工学部の Summer in Silicon Valley に３週間参加した。宿泊先、食事は変更がなかったが、学習の内容が変わった(Summer in Silicon Valley 内容 P.13 に参照)。予

定内容が予期せぬ事態のために、会社の見学予定が変更となり、他の内容はそのままで行った。英語の講演、グループワークなど、語学学校と工学部スタッフが学生を支援した。そして、鹿児島大学北米センターの先生が生活支援をした。Summer in Silicon Valley の最後の三日で、グローバル人材育成支援室のスタッフ二人と理工学研究科の研究科長がサンノゼ州立大学に訪ねた。学生とコンピューターミュージアムを見学した、夕食時に学生の経験を聞いた。学生の発表会を見学し、Summer in Silicon Valley の卒業式に参加した。鹿児島大学の学生一人のグループが発表会で３位に入った。発表のテーマは「スマートカード」（パスポート、クレジットカード、運転免許など、一つのカードに入る）だった。

Summer in Silicon Valley (July 12 to July 31, 2015)

Week 1	08:00 - 12:00	7/12 **Arrive in San Francisco**	7/13 **Opening Ceremony**	7/14 **Session:** History of *Silicon Valley & Its High-Tech Companies*	7/15 **Field Trip:** *(Group A) Apple* *(Group B) Intel*	7/16 **Session:** *Engineering Innovation and Business Opportunities*	7/17 **Field Trip:** *(Group A) Intel* *(Group B) Apple*	7/18 **Cultural Trip:** *Pacific Coast, Santa Cruz, Monterey Bay, Carmel, etc.*
	14:00 - 17:00		**Session:** *Introduction & Team Formation*	**Team Projects**	**Team Projects**	**Team Projects**	**Team Projects:** *Progress Report*	
Week 2	08:00 - 12:00	7/19 **Individual Activities**	7/20 **Session:** *Entrepreneurship - Business Proposals and Fund Raising*	7/21 **Field Trip:** *(Group A) Tech Museum* *(Group B) Tesla*	7/22 **Session:** *Product Design and Market Strategies*	7/23 **Field Trip:** *(Group A) Tesla* *(Group B) Tech Museum*	7/24 **Session:** *Globalization & Technology Transfer*	7/25 **Cultural Trip:** *San Francisco 49 Miles Drove, Stanford University, Levi Museum, etc.*
	14:00 - 17:00		**Team Projects**	**Session:** *Communication Skills*	**Team Projects**	**Team Projects**	**Team Projects:** *Progress Report*	
Week 3	08:00 - 12:00	7/26 **Individual Activities**	7/27 **Field Trip:** *San Jose Biocube (business incubator)*	7/28 **Session:** *American Corporate Culture and Management Styles*	7/29 **Field Trip:** *Company to be announced*	7/30 **Session:** *Special Topics*	7/31 **Team Projects:** *Presentations and Competition*	8/01 **Departure for Home**
	14:00 - 17:00		**Session:** *Presentation Skills and Data Analysis*	**Team Projects**	**Team Projects**	**Team Projects**	**Award Ceremony and Farewell Dinner**	

８月３日から、学生が一人ずつボランティアワーク研修に参加した。３名はサンノゼの日系企業でボランティアワーク研修に参加した、１名が個人準備したマレーシアの日系企業でボランティアワーク研修に参加した。サンノゼの学生の支援ために、グローバル人材育成支援室のスタッフの代わりに、AZUSA Inc.の若井さんが支援した。AZUSA はボランティアワーク研修、ホームステイ、２４時間のサポートを行った。８月 21 日でグローバル人材育成支援室のスタッフが学生のボランティアワーク研修会社を見学した。８月 22 日、グローバル人材育成支援室のスタッフと参加学生との交流会を行った。交流会では、修士研究分野と離れたボランティアワーク研修に参加学生たちに聞き取りを行った。学生たちは、ボランティアワーク研修での行動、興味、問題点などが理解しにくいと言っていた。グローバル人材育成支援室スタッフによるカウンセリングを行って、分野の以外経験が大事だと言うことを説明した。

サンノゼ　9 月 10 日〜9 月 12 日

　シリコンバレーベイエリアにおいても、参加学生の企業体験研修先を訪問し職場見学をさせて頂いた。他にも、サンノゼでは、本学 P-SEG 海外研修基礎コースも行われていたので、その研修に同行した。また、サンノゼ研修参加の学生達（3 名）は 14 週間の研修が終了するため、彼らを引率し帰国した。

　シリコンバレーベイエリアでの企業体験研修を行っている学生達（4 名）の研修先を見学した。3 名の学生は日系企業で、1 名の学生は経営者が日本人となる現地企業であった。日系企業の職場は、日本人と現地のスタッフが机を並べで共に働いており、日本語と英語の両方の言語が飛び交う環境であった。そして、面会した研修先スタッフの方々も日本人駐在員であった。研修先によって学生への対応を異なるが、日系企業のなかにはシリコンバレーベイエリア内にある日系企業同士の会合に学生を同行させ、学生がさまざまな業種の人達と知り合い、情報交換ができる場を提供してくれる配慮もあった。

　語学研修からサンノゼで研修をしていた学生が企業体験研修 6 週間目を向かえ研修終了間近ということもあり、会社内における彼らの研修成果のプレゼンテーションを見学することができた。その学生は機械を分解し組み立て作業において、研修先スタッフ（外国人）の英語説明が分からない時には絵に描いて表す、Goggle 翻訳を使うこと自身が理解できるまでコミュニケーションをはかった。そして、彼の経験上、よく理解できていないままに作業を進めていくと、途中で作業が中断され、結果として自身も何をしているか分からない状況になったとのことだった。研修先スタッフより不明な点があれば、もっと周りのスタッフに質問したほうが良いということだった。

　今回の企業体験研修実施において、研修開始し 3 週目に入った時に研修先の都合により研修先が変更になった学生がいた。その後、学生は 2 件目の研修先で研修を開始し 1 週間が過ぎたところで研修先を見学することが出来た。1 件目の研修先は日本人が全くいない環境での研修になり、英語でのコミュニケーションだったので、学生自身も与えられた仕事の内容理解には時間がかかっていたようだった。だた、2 件目については、日系企業ということで社内に日本人もいる環境になるので、前回に比べて学生自身が安心して業務に取り組んでいた。担当者の方からも真面目に取り組んでいるとのことだった。

　現地企業を見学に行き、担当者に会うことはできなかったが、職場内の見学をすることはできた。その作業場には、さまざまな業種の人達が集まってきており、仕事の合間に気分転換のために置かれている卓球台があったのが印象的だった。気になることとしては、研修をしている学生は日頃よりその作業場において一人で作業をしていることが多いとのことだった。職種上パソコンが 1 台あればどこでも働くことを可能とするため、

研修先スタッフの方々と毎日顔を合わせることはなく、必要な連絡事項はメールでやりとりをするとのことだった。学生自身は毎日、研修先スタッフと顔を合わさないことを気にしてはいなかったが、今後研修を実施していく上で学生が研修先で孤立する状況がないように配慮する必要があると感じた。

3.4 GOES 海外研修：サンディエゴ支援：6 月 21 日～9 月 27 日

グローバル人材育成支援室のスタッフがサンディエゴでオリエンテーションの準備を GOES サンディエゴ海外研修が行う 1 週間前（6 月 15 日～6 月 20 日）に行った。6 月 21 日にサンディエゴ空港で学生たちとグローバル人材育成支援室の残りのスタッフの出迎えを行った。サンディエゴ州立大学附属語学学校 American Language Institute (ALI) のスタッフとホームステイ家族も来た。学生は空港からホームステイ家族と一緒に帰った。

次の日、1 週間のオリエンテーションを行った。(オリエンテーション内容 P.17 参照)。毎日サンディエゴ州立大学工学部の会議室に集め、その日の予定を説明した。1 日目、大学を理解するため、キャンパスツアーを行った。2 日目、生活活動を英語でするため、市電でショッピングモールに行った。3 日目、サンディエゴ市を理解するため、街巡りツアーを行った。4 日目、ラ・ホーヤと理工系ソーク研究所をバスで見に行った。ソーク研究所で英語のツアーに参加した。5 日目、サンディエゴの文化と歴史を理解するため、そして英語を知らない人と話すためにバルボアパークにスカベンジャーハントを行った。

San Diego GOES Orientation				
Monday June 22nd	*Tuesday June 23rd*	*Wednesday June 24th*	*Thursday June 25th*	*Friday June 26th*
Getting to know SDSU	**At the Mall**	**Walking Tour Downtown San Diego**	**La Jolla Shores, tour of Salk Institute**	**Balboa Park**
10:30 Meet outside SDSU Transit Center - See ALI - Get Compass Cards - Meet Donovan Geiger, - orientation briefing 1:15 Campus tour 2:30 Engineering tour 3:30 review, end	10:30 Meet in classroom - Orientation Briefing - Shopping English review 11:30 move to Fashion Valley (trolley), walk through mall 12:00~3:00 Mall Challenge 3:30 review, end	9:30 Meet outside SDSU Transit Center - move to downtown (trolley) 10:30 Meet Suzuki-san in Santa Fe Station, start walking tour 4:00 review, end (sunscreen, hat, comfortable shoes, water needed!)	9:30 Meet in classroom - Orientation briefing 10:30 Trolley to Old Town, bus to La Jolla shores 1:00 Tour of Salk Institute 2:30 Visit UCSD 3:30 board bus for home	10:30 Meet in classroom - Orientation Briefing Move to Balboa Park (215 bus) 11:00 ~ 3:00 Scavenger hunt 3:30 review, end
Lunch on campus (pack lunch ok)	Lunch in mall food court (pack lunch ok)	Lunch in downtown restaurant (bring money, no pack lunch)	Lunch in La Jolla (pack lunch ok)	Lunch at Balboa Park (pack lunch ok)

Fashion Valley Mall Study	
What things are the same as in a Kagoshima/Japanese mall?	
Shops	
Products	
Services	
Shoppers	
Other	
What things are different?	
Shops	
Products	
Services	
Shoppers	
Other	
What are some things you hear people saying?	
Shop staff	
Shoppers	
What did you say to people?	
Shop staff	
Shoppers	
What did you have trouble doing?	
What was easy?	
Based on what you see at the mall, how would you say American culture is different from Japanese culture?	
Bonus Point: What is the Fashion Valley Code of Conduct?	

Balboa Park Scavenger Hunt	
Team:	Members
1. How old is Balboa Park?	
2. Why was it built?	
3. When was the House of Hospitality built?	
4. Who is the architect who designed it?	
5. How many fountains are there in Alcazar Garden?	
6. What must you not touch in the Zoro Garden?	
7. What does RSVP mean at Balboa Park?	
8. How old is the Japanese Friendship Garden?	
9. What's on the menu at the Japanese Tea House?	
10. Which other museum is sponsored by the Japanese Historical Society of San Diego?	
11. There is a tram outside the San Diego Model Railway Museum. Where is it going?	
12. What is the number on the railway signal?	
13. Who is the warrior on the horse?	
14. Which museum reminds you of Osaka?	
15. Who are most of the plays at the Old Globe Theatre by?	
16. What are 2 other kinds of theater at Balboa Park?	
17. What's playing at them?	
18. What's the most modernist building at Balboa Park?	
19. Which museum has 2 cats, 2 sheep and 2 bison on its façade?	
20. How many people can you count on the façade of the San Diego Museum of Art?	
21. In the sculpture garden, which sculpture is the same age as ~	
22. In the sculpture garden, which sculpture was made in the same year that ~	
23. Take a photo of the most gorgeous **drinking** fountain in Balboa Park.	
24. Take a photo of Velasquez and his two friends	
25. What's the name of the exhibition at the Museum of Photography?	
26. What is the Botanical Building's roof made of?	
27. How many kinds of carnivorous plant are there in the Botanical Building?	
28. Name a plant from: Chile: Mexico: Jamaica: South Africa: Madagascar: Ethiopia:	
29. Where can I see the oldest sports trophy? What sport is it for?	
30. What kind of designs are on the façade of that building?	
31. What kind of airplanes are outside the Aerospace Museum? When did they first fly?	
32. What was the truck outside the Automotive Museum designed to carry? When was it made?	
33. How many museums have gift stores?	
34. Which buildings are NOT museums?	
35. Where can I see a Mariachi Band on July 1st?	

6 月 27 日、グローバル人材育成支援室のスタッフ全員がサンディエゴから日本へ移動した。以降の学生支援は語学学校 ALI のスタッフ、サンディエゴ州立大学工学部のスタッフと鹿児島大学関係者、森氏が行うことになった。6 月 29 日～8 月 7 日、学生が 6 週間語学学校 ALI で英語を学んだ。7 月 27 日～8 月 7 日、学生は週 2 回で昼から、サンディエゴ州立大学工学部キームーン先生のロボット関係授業に参加した。その授業は英語で行った、ロボット関係分野の研修学生は一人しかいなかった。授業はサンディエゴ州立大学工学部の大学院生も手伝った。当初授業は 4 時間の予定だったが、授業が 3 時間～3.5 時間になった。この結果、学生の評価で、ロボット関係授業は内容の価値が低いとされた。8 月 8 日、学生 4 名はサンノゼに移動した、学生 5 名はサンディエゴ市内の寮に移動した。サンノゼに行く 4 名は、すでにサンノゼにいる学生 3 名と同じように日系企業でのボランティアワーク研修に参加した。サンディエゴに残りの学生 5 名はグローバル人材育成支援室が設定したボランティアワーク研修に参加した。ロボット関係分野の学生 1 名はサンディエゴ州立大学工学部キームーン先生のラボにボランティアワークを行った。学生 2 名は建築専攻の学生だった。そのうち学生 1 名はサンディエゴ州立大学美術学部の中村光太郎先生の建築会社で研修を行った。もう 1 名は中村先生の関係ある建設会社で研修を行った。その後、この 2 名は R.H. Fleet 科学館のボランティアプログラムに参加した。危機管理のために、現地の森氏がボランティアワーク研修の期間、学生の支援を行った。

サンディエゴ 9 月 7 日～9 日では、主に学生達は企業体験研修の期間になるので、学生と会い研修の進捗状況確認と企業体験研修先 RH Fleet Museum を見学した。他にも、サンディエゴでの企業体験研修先の情報収集として、企業研修先を紹介する在サンディエゴ留学業者や在サンディエゴ本学友好大使・森典之氏より情報提供頂いた Panasonic Appliances Refrigeration Corporation of America を訪問し、本海外研修の説明や学生受入れについて協議を行った。

サンディエゴにおける企業体験研修が開始し 4 週間目迎えた学生達（5 名）に会ったが、問題なく研修を進めていた。その時、学生たちが共通して答えたことは、語学研修期間に比べて英語を話す機会が少ないということだった。これは、語学研修期間は現地外国人の住居に学生個別にホームステイを行っていたが、企業体験研修が開始し学生同士が同じ滞在先になり住居を共にするため、日本語の使用頻度が増えることも影響したと思われる。企業研修についての共通の感想は、社内は全て英語になるので仕事の指示ややり方の英語説明を理解することが難しく、コミュニケーションがとれない場面が起きる。その時には、研修先スタッフはいつでもウェルカムな雰囲気で寛容に参加学生の質問を受入れ、熱心に指導をしてくれるということだった。企業研修実施中の学生個々の感想は次のとおりである。

- 自分が何かできる仕事がないか研修先スタッフに聞かないと仕事を頼まれない。研修先スタッフからは、もっと学生自身から仕事を手伝うと言って欲しい。また、設計方法を You-tube で学ぶ機会もあってユニ

ークだった。他にも、学生の関心のあった橋の建設について学びたいと研修先スタッフに主張したところ、プロジェクトに参加させてくれた。自らを主張して仕事をする意識を実感した。

- 会社の中では、研修先スタッフに英語での指導のもと実務のお手伝いをしている。この実務のお手伝いを通じて、自身が好む仕事が分かった気がする。
- 日本とアメリカの大学において研究室の違いが分かった。研究室における現地学生の休みの取り方や現地学生が指導教員の間違いを指摘するなど違いがあった。
- 博物館は訪問する親子連れとの英語でのコミュニケーションが多く楽しい。
- 博物館では 3D プリンターを使用しポットやトイレを作ることがある。以前、大学で 3D プリンターを使用しいろいろな物を作っていた経験があるので研修先スタッフに頼まれると自信を持って取り組むことができる。

９月 21 日から９月 27 日、平成２７年度の室長木方十根がサンディエゴに行った。学生の研修の状況を把握するとともに、研修先の監督者と面会し、研修の実施に関する課題について聞き取りを行った。最後に、サンディエゴ研修学生５名とサンノゼ研修学生４名と一緒に日本へ帰った。

3.5 GOES 海外研修：フォローアップ

海外研修から帰国した参加学生に対して、課題３つを準備した。１つは海外研修中で書いたオンライン日記「Wiki」の提出。もう１つは TOEIC 試験の実施。そして、海外研修の結果を発表会で発表した（発表会の予定を下に参照）。この３つの教育的な課題の詳しい説明は英語でこの活動報告書の最後につけた。

理工学研究科 大学院理工系イノベーション海外研修プログラム

Graduate Overseas Engineering and Science Studies for Innovation GOES

研修発表会　＜GOES　Film　Festival＞

- 日時：平成 27 年 10 月 28 日水曜日　16 時 00 分～18 時 30 分
- 場所：稲盛会館　大ホール
- 進行 16 時 00 分～ご挨拶（グローバル人材育成支援室室長：建築　木方先生）
    - ✧ 16 時 10 分～研修参加者（13 名）による発表（下記の通り）・質疑応答
    - ✧ 18 時 10 分頃～閉会挨拶（理工学研究科長　近藤先生）
    - ✧ （司会進行役：グローバル人材育成支援室　コーザー先生）

3.6 GOES 海外研修財政援助

2015 年大学院理工系イノベーション海外研修参加学生対象支援金受給状況

2015 年において本海外研修参加の学生（13 名）が受給した支援金は次のとおりになる。

- 鹿児島大学支援（参加学生全員）

- 平成 27 年度日本学生支援機構 JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）1 プログラム採択

  - 採択プログラム名：大学院理工系イノベーション海外研修　奨学金支給割当人数 14 名
  - 大学院理工系イノベーション海外研修　（実績）　奨学金受給人数 11 名

4.1 平成２８年度 GOES 海外研修の募集

平成２８年度海外研修の説明会：

第一回：7月22日（水）

第二回：10月8日（木）

第三回：12月13日（木）

第四回：2月24日（水）合同

他：10月2日（金）（トビタテカウンセリング）

平成２８年度海外研修の面接：

１月 13 日（水）７名

２月９日（火）５名

３月 11 日（金）２名

第一回理工学研究科 GOES２０１５＆２０１６懇親会：

日時：平成 28 年 1 月 27 日水曜日 17 時 50 分~19 時 30 分

場所：教育学部食堂 エデュカ

進行：

- 17 時 50 分~18 時 00 分 開会の挨拶 副研究科長(グローバル人材育成支援室室長) 木方 十根教授
- 18 時 00 分~18 時 30 分 GOES2015 参加学生の自己紹介 参加学生の代表者の感想 (サンノゼ:情報生体システム工学専攻 中山 翼、サンディエゴ: 物理・宇宙専攻 山下 美咲) GOES2015 参加学生の指導教員の感想(物理・宇宙専攻 小山 佳一教授)
- 18 時 30 分~19 時 20 分 歓談(食事用意有)
- 19 時 20 分~19 時 30 分 閉会の挨拶 副研究科長(理学部長) 與倉 昭治教授 事務連絡 グローバル人材育成支援室

4.2 平成２８年度海外研修のパンフレット：サンディエゴ・サンノゼ

Global Development Office グローバル人材育成支援室

Director/室長:
Junne Kikata
木方十根

Program Coordinators/
コーディネーター:
Bo Causer　ボウ　コーザー
Ayano Fujisaki　藤崎文乃

Office Support/
事務補佐員:
Hitomi Hamakawa
濱川仁巳

Contact/連絡: globaljinzai@eng.kagoshima-u.ac.jp　(099) 285 -3060　http://www.globaljinzai.eng.kagoshima-u.ac.jp

Academic

The Graduate Overseas Engineering & Science (GOES) program is part of a comprehensive plan to increase global participation for Masters' course students in the Graduate School of Science and Engineering. Students who complete all components of the course will receive 4 credits towards their graduation total. In addition, the GOES program fulfills the Graduate School goal "To develop capable people who are creative and who can apply that creativity to solving problems in the many fields of natural science where research explores deeper, crosses disciplinary boundaries, and becomes more complex and comprehensive."

See the syllabus for more information.

大学院理工系イノベーション海外研修プログラム GOES は理工学研究科大学院生の授業として行われています。この授業を履修すると４単位を付与します。理工学研究科の目標は「研究の急速な深化、複合化、学際化、総合化が生じている様々な自然科学分野で創造力を持って問題に対応できる人材の育成」を目標としています。GOES 海外研修プログラムはこの目標のために行われています。

詳しく知りたい場合、シラバスをご覧になって下さい。

Program Components ・ プログラム構成

Language School 語学学校

Content Studies 大学での研修

Work Experience 就業研修

This extended short-term program allows students to first develop their language skills; to build on those skills through an engineering-oriented content program, and finally to stretch their knowledge in a real-world business setting.

この短期留学研修で、参加者がそれぞれにグローバル人材としての能力を身につける。最初に語学学校で英語能力を磨く。そして大学での研修でより腕を上げる。さらに、参加者が実社会で学んだ事を使用生かす。

Preparation Schedule ・ 準備予定

6 月 July	22nd	GOES Information session #1　GOES 第一回説明会
10 月 Oct.	8th	GOES Information session #2　GOES 第二回説明会
11 月 Nov.		Send out GOES Applications, GOES Information session #3 GOES 参加申し込み　開始, GOES 第三回説明会
12 月 Dec.	17th	GOES Application deadline　GOES 参加申し込み　締切
1 月 Jan.	14th	GOES Interviews　GOES 参加申込者　面接
	28th	Individual Counseling*　GOES 参加申込者カウンセリング*
		*Counseling will be held after funding program results are announced *日本学生支援機構(JASSO)結果通知後カウンセリング実施
2 月 Feb.	4th	Notice of Acceptance for GOES Participants GOES 参加申込者　結果通知 TOEIC Test #1　・　第一回 TOEIC　テスト
3 月 March		Begin travel preparations (passport, visa etc.) GOES 参加者　手続開始（パスポート、ビザなど）

SAN JOSE
サンノゼ

SAN DIEGO
サンディエゴ

GOES イノベーション海外研修
Graduate Overseas Engineering & Science
Innovation Program

鹿児島大学　大学院理工学研究科
Kagoshima University Graduate School of Science and Engineering

SAN JOSE　サンノゼ

Program Schedule ・ プログラム予定

English Study	SJSU: International Gateways	
San Jose State	● 8 levels of classes	**5 Weeks**
University	● 20 hours/week (morning or afternoon)	
	● Standard oral/reading/writing classes + electives	
語学研修	SJSU: 同校付属語学学校インターナショナル ゲイトウェイズ	
サンノゼ	● 授業のレベルは８あり。	
州立大学	● 授業は一週間 20 時間あり。(午前・午後レベルに別分け)	**5 週間**
	● 英語を「話す、聴く、読む、書く」の授業＋選択授業	
Summer in Silicon	SJSU: Charles W. Davidson College of Engineering	
Valley	● Mornings: Expert Lectures/field trips to local companies etc.	
San Jose State	● Afternoons: Group project: product design & development	**3 Weeks**
University	● Weekends: Cultural activities	
サマー　イン	SJSU: チャールズ・ディビッドソン工学部	
シリコンバレー	● 午前：専門講座・企業見学・博物館	
サンノゼ	● 午後：国際的なグループプロジェクトで製品の設計を行う。	**3 週間**
州立大学	● 週末：文化交流活動	
Volunteer Work	Azusa Placement Agency	
Experience	● Interview with placement agency	**4 Weeks**
	● Placement agency matches you with the appropriate company.	
企業研修	企業研修仲介機関アズサ	
	● 企業研修先仲介機関と面接を行う	**4 週間**
	● 企業研修先仲介機関は企業研修先との マッチングをする	
Housing	SJSU: International House	
	● Historic sorority house	
	● Shared kitchen, laundry, billiard, TV room, dining room, etc.	**8 Weeks**
	● 2~3 students/room	
	Azusa Placement Agency Housing	
	● Self-catering homestay	**4 Weeks**
宿泊設備	SJSU: インターナショナル ハウス	
	● 美しい歴史的な家に住む。	
	● 共有の台所、洗濯、ビリヤード、テレビルームなど完備	**8 週間**
	● ２人～３人室	
	アズサ仲介機関居住施設	
	● 食事無しホームスティ	**4 週間**

Volunteer Work Experience Placements 企業研修先と内容 2015

Toyota Info Technology Center
Automotive charge data analysis 充電制御技術データ解析

Kawasaki Robotics
Industrial robot design & development 産業用ロボット設計開発

Saki America
Installation & demonstration of quality testing equipment 検査装置のデモや設置

Arden Wood Historic Farm
Park ranger パークレンジャー

Digital Media Academy
STEM education 理工系教育業務

Hack Japan
Android programming アンドロイドアプリ開発

Senju Comtek Corp.
Solder production はんだ付け材料の製造

SAN DIEGO　サンディエゴ

Program Schedule ・ プログラム予定

English Study	SDSU: American Language Institute (ALI)	
San Diego State	● 7 levels of classes with 3 sub-levels in each	**6 Weeks**
University	● 20 hours/week (8:00am–1:00pm)	
	Standard oral/reading/writing /listening classes + electives	
語学学校	SDSU: アメリカン　ランゲージ　インスティチュート	
サンディエゴ	● 授業のレベルは７あり、３つそれぞれに分かれる。	**6 週間**
州立大学	● 授業は一週間 20 時間（8:00–13:00）	
	● 英語を「話す、聴く、読む、書く」の授業＋選択授業	
Robotics Program	SDSU: College of Engineering	**2 Weeks**
San Diego State	● Learn how to use EEG & EMG technology to control machines.	**concurrent w/**
University	● Develop a practical application for the technology.	**English study**
ロボティックス	SDSU:　工学部	
サンディエゴ	● 脳波計と筋電図で機械操縦を学ぶ。	**2 週間**
州立大学	● 技術の応用計画を考える。	**語学同時**
Volunteer Work	Option A: Company Placement	
Experience	● Have training at local Architecture or Tech companies	**6 Weeks**
	Option B: Cultural Volunteer	
	● Join the volunteer program at a local museum	
企業研修	選択　(A)	
	● 現地の建築系企業・企業系企業での研修	**6 週間**
	選択　(B)	
	● 現地科学系博物館でボランティア	
Housing	SDSU: ALI Homestay	
	● 2 meals a day with host family	
	● students matched with families by ALI	**6 Weeks**
	Vantaggio Suites Weekly Apartents	
	● 1–2 students/room	**6 Weeks**
	● Shared kitchen, laundry, TV room etc.	
宿泊設備	SDSU: ALI ホームスティ	
	● 毎日ホストファミリーと朝・夕食を共にする。	
	● ホーストファミリーとのマッチングが行われる。	**6 週間**
	ウィークリーマンション、バンタジオスイツ	
	● 1～2 人室	**6 週間**
	● 共有の台所、洗濯、ビリヤード、テレビルームなど完備	

Volunteer Work Experience Placements 企業研修先と内容 2015

Rosling Nakamura & Terada Architects
Architectural design/ CAD 建築設計/CAD

KPFF Engineering Consultants
Design: San Diego Zoo bridge 建築設計サンデ

R.H.Fleet Science Center
Museum volunteer: maker studio 博物館のメーカースタジオボランティア

San Diego State University
Robotics systems lab assistant ロボット系研究室での研究補助

STUDENT VOICE 参加者のコメント

"At my company there was a broken machine. I read many manuals and fixed the machine. Then I taught the workers how to use it. Through this experience my ability as an engineer was validated."

"I learned:
Speak Up! Don't be shy! Don't be afraid!
These are the most important points of good communication, and to build good relationships."

"Accept the differences in others, don't be afraid to be different, and meet each person as an individual. You can build a good relationship by trying to understand what each person thinks is important."

"Before joining the GOES program I had never been outside of Kagoshima. But I could meet many kind people, and I gained confidence. I learned that it's important to talk to many people to get new ides."

"I had some trouble communicating. For example I wanted to know the function of part of the robot, but my colleague told me the function of the whole robot. I need English to get mutual understanding."

LOCATION 研修先の位置

SAN JOSE サンノゼ

SAN DIEGO サンディエゴ

5. 英語学習支援

平成２７年度の英語教育は平成２６年度と少し変更した。平成２６年度の場合には、週３回 60 分のイングリッシュワークショップを行った。参加者は理工系学生Ｂ３～Ｍ２だった。登録なしで参加できるので、正会員が１～２人しかいなかった。学生が多い時には、１５名が参加しだったが、二人だけの時もあった。一般的英会話授業と同様に準備したが、参加学生のレベルや興味がバラバラの場合には、教える内容を改めることが必要だった。さらに、イングリッシュワークショップの内容がスピーキング・リスニング・ライティングに分けていたので、正会員が少ないと、予定通りに進まなかった。この結果、平成２７年度では二つの変更を行った。つまり週１回、一定のコースを行う、または、もう少しい柔軟な予定を準備した。イングリッシュワークショップの内容のスピーキング・リスニング・ライティングを今回は分けなかった；本格的な英会話学校の授業のように、スピーキング・リスニングを毎回のワークショップに組み込んだ。そして、ライティングを無くした。その理由は学生が一般的な大学英語授業で「Academic English」のリーディング・ライティングを学ぶ機会があるので、スピーキング・リスニングを中心した。そしたら、平成２７年度のイングリッシュワークショップはもう少しいスムーズに行った。イングリッシュワークショップの以外に、学生や先生の英語論文を校正したし、学科や専攻のウェブサイトを校正した。

6. 他のグローバル人材育成

海外研修の以外に、グローバル人材育成支援室は様々なイベントやグローバル人材育成に関わる支援を行った。一つは、アメリカアラバマ州のタスケギー大学の建築学科と中国清華大学の学生国際交流を支援した。サンディエゴ州立大学美術部の建築家、中村光太郎先生の講演会も行った。発表のテーマは沢山のグリーンなデザインの方法や、災害の後の復興をデザインだった。さらに彼の留学時代の奮闘記や日本人が外国に住む体験記などを説明した。また、博士課程学生、ポストドクター、若手研究者、研究者が欧州での研究の機会を得る支援ために、日欧の EURAXESS 研究支援会での発表を行った。その結果で、スイスの大学が理工学研究科の先生から際研究の支援を受けた。他の支援は客員研究員の打ち合わせを通訳することである。

アラバマ州のタスケギー大学の学生国際交流

中国清華大学の学生国際交流

グローバル人材育成支援室の室員の人材育成：
グローバル人材育成支援室では、第 1 回目となる 2015 年度海外研修の実施経験を活かして、さらなる研修の発展を目指し次のセミナーに出席した。

- 2015 年 12 月 4 日（金）大阪大学グローバルコラボレーションセンター主催セミナー（大阪市）
『海外体験型教育プログラムのつくりかた』

海外体験型教育プログラム（フィールドスタディ、インターンシップ）の企画立案、学内体制づくり、受入先との事前準備、現地情報とリスク管理、研修期間における現地と大学の体制についてセミナーが行われた。ここでは、支援室が海外研修の企画立案をしていったことと近い内容が話されていた。その中での課題（学生管理や危機管理）も共通しており、他大学も同じことで模索していることが分かった。特に、海外研修の企画立案をする時には事前調査が必須であるということを強調されていた。これを怠ることで大学としてのリスク管理の甘さや公的責任が求められるということだった。

- 2015 年 12 月 5 日（土）『海外体験学習』研究会（JOELN）2015 年度年次大会（大阪市）
  - 基調講演『ルーブリックとは何かー学生の行動変容を促す評価法ー』
  - 事例報告『海外体験学習とルーブリックー同志社女子大学、大阪大谷大学、明治学院大学の事例』
  - 分科会　危機管理セッション

基調講演では、海外体験学習の質を求めるためにもルーブリックを使用し、海外体験学習の客観的かつ厳格な評価ができるということだった。ルーブリックを使う理由としは、簡便でありながらも本当に大切なことを学生に伝えることができる濃密なコミュニケ―ションの機会になる。また、学生の学習を促すと同時に、批判的思考力、自己評価力、自己改善力をトレーニングすることができるということだった。
危機管理セッションでは、大学が海外において研修を実施するにはリスク管理が必須となっており、リスク管理の全体像や基本事項を把握した。また、大学教職員、保険会社、旅行会社などの関係者も参加し、テロのような脅威、学生の内面メンタル、警備に関する幅広いリスクを共有して、事例を用いて実践的なヒントを得ることで、今後の研修実施に活用していくことができるセッションだった。
大阪大学グローバルコラボレーションセンターが危機管理に関して発表を行った。同センターは設立から 5 年間で約 400 人の学生を海外に送り出しており、2 週間の研修から海外インターシップまでを実施している。設立当初より、特に大きい事故などは起きてないが、ヒヤリ・ハットする事例は起きているとのことだった。リスクは、派遣する学生の安全、保護者、大学、受入先などそれぞれの関係者の立場から考える必要があり、関連する事象は、治安、自然災害、天候、費用などが挙げられ、大学においてはブランドリスクがある。これらを踏まえて、リスクを最大限に減らす努力とそれを乗り越える考えが求められるとのことだった。

平成２７年度 GOES 海外研修参加学生状況			
学生の専攻名	研修地域	就業体験研修先	大学院終了後の進路
機械工学 １年生	サンノゼ	川崎ロボティクス	三浦工業株式会社
化学生命・化学工学１年生	サンノゼ	Ardenwood Historic Farm	栗田工業株式会社
情報生体システム工学１年生	サンノゼ	HACK JPN Inc.	ヤフー株式会社
情報生体システム工学１年生	サンノゼ・東南アジア	ネットマークス インドネシア	双日株式会社
情報生体システム工学１年生	サンディエゴ	サンディエゴ州立大学 Smart Health Lab	株式会社村田製作所
建築学１年生	サンディエゴ	KPFF Consulting Engineers	株式会社アール・アイ・エー
建築学１年生	サンディエゴ	RNT Architects	株式会社スペース
建築学１年生	サンディエゴ	Reuben H Fleet Science Center	大和ハウス工業株式会社
生命化学１年生	サンディエゴ	Reuben H Fleet Science Center	グローバル・ウェーハズ ジャパン株式会社
機械工学 １年生	サンディエゴ・サンノゼ	Toyota Information Technology Center	トヨタ自動車九州株式会社
機械工学 １年生	サンディエゴ・サンノゼ	Saki America, Inc.	トヨタ自動車九州株式会社
情報生体システム工学１年生	サンディエゴ・サンノゼ	Digital Media Academy Systena America Inc.	三菱自動車工業株式会社
物理・宇宙１年生	サンディエゴ・サンノゼ	Senju Comtek Corp.	新日鐵住金株式会社

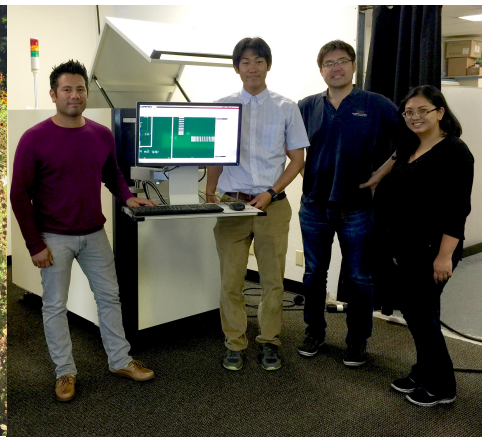
San Diego

Information

San Jose

S.J.S.U. INTERNATIONAL CENTER

Volunteer



Events & Trip

GROVE SCHOOL OF ENGINEERING

鹿児島大学大学院　理工学研究科

グローバル人材育成支援室・Global Development Office

平成２８年度活動報告書

１．活動経過

平成２８年度グローバル人材育成室活動		
４月	平成２８年度 GOES	GOES 事前準備：参加者の英語学習・海外研修ガイダンス 海外研修サポートの内容作成 理工系国際コミュニケーション海外研修課題・評価の内容作成 GOES ノースダコタ・ニューヨーク海外研修の内容作成
	他	機械系学生向け英語授業 英語ワークショップ
５月	平成２８年度 GOES	GOES 事前準備：参加者の英語学習・海外研修ガイダンス 海外研修サポートの内容作成 GOES ノースダコタ・ニューヨーク海外研修の内容作成
	他	機械系学生向け英語授業 英語ワークショップ
６月	平成２８年度 GOES	サンディエゴ研修サポート GOES ノースダコタ・ニューヨーク海外研修の内容作成
	他	機械系学生向け英語授業 英語ワークショップ
７月	平成２８年度 GOES	サンディエゴ研修サポート GOES ノースダコタ・ニューヨーク海外研修事前準備：参加者の英語学習・海外研修ガイダンス
	他	機械系学生向け英語授業

８月	平成２８年度 GOES	サンノゼ企業研修サポート サンディエゴ企業研修サポート GOES ノースダコタ・ニューヨーク海外研修事前準備：参加者の英語学習・海外研修ガイダンス GOES 冬サンノゼ海外研修の内容作成
	他	機械英語授業 グローバル人材育成シンポジウム準備 グローバル人材育成シンポジウム　パンフレット
９月	平成２８年度 GOES	サンノゼ企業研修サポート サンディエゴ企業研修サポート GOES２０１６学生のフォローアップ準備 GOES 冬サンノゼ海外研修の内容作成
	平成２９年度 GOES	GOES２０１７JASSO 申請
	他	英語ワークショップ グローバル人材育成シンポジウム準備 第二回理工学研究科 GOES 懇親会準備 平成 28 年度理工系イノベーション海外研修カリフォルニア研修参加学生企業インターンシップ報告会 第 1 回理工学研究科グローバル人材育成シンポジウム 第二回理工学研究科 GOES 懇親会
10 月	平成２８年度 GOES	GOES２０１６学生のフォローアップ GOES２０１６ニューヨーク・ノースダコタ学生の肝付町発展発表会 GOES 冬サンノゼ海外研修の内容作成
	平成２９年度 GOES	GOES２０１７カリフォルニア・ニューヨーク予定作り GOES２０１７カリフォルニア・ニューヨークパンフレット
	他	英語ワークショップ
11 月	平成２８年度 GOES	GOES２０１６学生のフォローアップ： TOEIC GOES 冬サンノゼ海外研修予定・企業ボランティアの準備 GOES 冬サンノゼ海外研修事前準備：参加者の英語学習・海外研修ガイダンス
	平成２９年度 GOES	GOES パンフレット作り GOES２０１７カリフォルニア・ニューヨーク参加希望者説明会 科学技術北米研修学部授業シラバス作り
	他	英語ワークショップ

12 月	平成２８年度 GOES	GOES 冬サンノゼ海外研修事前準備：参加者の英語学習・海外研修ガイダンス GOES 冬サンノゼ海外研修企業ボランティアの準備 GOES２０１６ニューヨーク・ノースダコタ学生発表会
	平成２９年度 GOES	科学技術北米研修学部授業シラバス作り
	他	英語ワークショップ Mary Walscott 理工系企業・イノベーションセミナー（福岡）
平成２９年度グローバル人材育成室活動		
１月	平成２９年度 GOES	GOES２０１７カリフォルニア・ニューヨーク予定作り GOES２０１７カリフォルニア・ニューヨーク参加希望者説明会 GOES２０１７カリフォルニア・ニューヨーク参加希望者面接 理工系国際コミュニケーション海外研修評価 科学技術北米研修学部授業シラバス作り
	平成２８年度 GOES	GOES 冬サンノゼ海外研修サポート GOES 冬サンノゼ海外研修企業ボランティアの準備
	他	GOES 参加学生感想文集
２月	平成２９年度 GOES	GOES２０１７カリフォルニア・ニューヨーク参加希望者説明会
	平成２８年度 GOES	GOES 冬サンノゼ海外研修サポート GOES 参加学生感想文集
	他	平成２８・２９年度グローバル人材育成室活動 理工系国際コミュニケーション海外研修教育レポート
３月	平成２９年度 GOES	GOES２０１７カリフォルニア・ニューヨーク参加希望者面接
	平成２８年度 GOES	GOES 冬サンノゼ海外研修サポート
	他	平成２８・２９年度グローバル人材育成室活動報告書作成 グローバル人材育成支援室ウエブサイト更新 理工系国際コミュニケーション海外研修教育レポート

2. 平成２８年度現地調査

- ６月：サンディエゴ・ニューヨーク：コーザー
- ８月：ニューヨーク・サンノゼ・サンディエゴ：藤崎

６月：サンディエゴ・ニューヨーク：コーザー

６月 18 日（土）	GOES 海外研修学生と鹿児島からサンディエゴに移動
６月 19 日（日）	学生支援
６月 20 日（月）	学生支援、Donovan Geiger と Dr. Kee Moon と打ち合わせ
６月 21 日（火）	学生支援、森氏と学生交流会
６月 22 日（水）	学生支援、 RNT 建築家・サンディエゴ州立大学の中村先生と打ち合わせ Donovan Geiger と Dr. Kee Moon と打ち合わせ
６月 23 日（木）	ニューヨークに移動、ニューヨークで現地調査
６月 27 日（月）	州立ニューヨーク・シティ大学建築学科授業見学 州立ニューヨーク・シティ大学付属語学学校の Amanda Meier と打ち合わせ
６月 28 日（火）	カプラン語学学校での打ち合わせ、授業見学、ニューヨーク現地調査
６月 29 日（水）	州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究所の川路先生と打ち合わせ
６月 30 日（木）	州立ニューヨーク・シティ大学建築学科の Hannah Borgensen と打ち合わせ
７月１日（金）	ニューヨーク JFK 空港から成田空港に移動
７月２日（土）	東京から鹿児島に移動

８月：ニューヨーク・サンノゼ・サンディエゴ：藤崎

８月 20 日（土）	ニューヨーク海外研修参加学生引率（移動日）
８月 21 日（日）	学生支援
８月 22 日（月）	学生支援、州立ニューヨーク・シティ大学川路先生訪問
８月 23 日（火）	語学学校（カプランインターナショナル）訪問、州立ニューヨーク・シティ大学オリエンテーション参加
８月 24 日（水）	州立ニューヨーク・シティ大学附属語学学校、打ち合わせ
８月 25 日（木）	サンノゼ移動日
８月 26 日（金）	就業体験研修先紹介業者（AZUSA)、打ち合わせ

8 月 27 日（土）	学生支援、サンノゼ滞在学生とミーティング
8 月 28 日（日）	学生支援、サンノゼ滞在学生とミーティング、サンディエゴ移動日
8 月 29 日（月）	就業体験研修先（RNT Architect）訪問 サンディエゴ滞在学生とミーティング
8 月 30 日（火）	就業体験研修先（RH Fleet Museum）訪問 鹿児島大学友好大使　森　典之氏訪問
8 月 31 日（水）	サンディエゴから日本に移動

3. 平成２８年度 GOES 海外研修計画

3.1　内容

平成２８年度 GOES 海外研修計画は以下の A)と B)の結果も基づいて実施した。

A)　JASSO 平成２８年度海外留学支援制度（協定派遣）計画書から：

本プログラムでは、国際的な理工系実践教育プログラムを通じて、グローバル社会で活躍できる優れた理工系人材を育成する。鹿児島大学は基本的教育目標として「我が国の変革と近代化の過程で活躍した先人の意志を受け継ぎ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する『進取の精神』を有する人材を育成する」こと、また国際化教育に関しては「国際的課題の解決に貢献し、グローバル化時代に活躍できる人材を育成する」とし、全学的カリキュラムとして実施する国際プロフェッショナル人材育成プログラムなどの取り組みに実績を上げてきた。また鹿児島大学大学院理工学研究科では、様々な分野において高度な専門的教育研究を展開し実績を挙げているが、これからの科学者・技術者には、国際的視野を持ち専門領域を超えた課題発見能力、その解決能力が求められる。本プログラムでは、こうした理工系の教育課題を、世界のイノベーションをリードするカリフォルニア州の協定校および現地企業と共有し、①当該の大学に広く世界から集まる将来の科学者・技術者とのグループワークによる国際的な理工系サマープログラム、②現地企業における研修③語学研修を通して国際舞台で活躍できる将来性豊かな理工系人材を養成する。

B）理工系国際コミュニケーション海外研修シラバス：

■対象入学年度		■対象専攻名	
2016		共通科目	
■科目名			
理工系国際コミュニケーション海外研修			
■前後期	■実施期	■区分	■単位数
前後期	1 年次前後期	選択科目	4
■担当教員			
近藤英二，木方十根			

■授業の概要（目的と内容）

企業のグローバル化に伴い、理工系の技術者が海外へ行く機会が増えており、日本の企業であっても海外での勤務が可能なコミュニケーション能力が求められるようになっている。また研究者にとって国際学会でのプレゼンテーションや海外の研究者との交流に必要なコミュニケーション能力は、不可欠なものになっている。この授業では、企業における海外勤務、海外の大学へ留学して学位の取得を行うために必要となる、海外での単独行動が可能な英語によるコミュニケーション能力を身に付けることを目的としている。この目的を達成するため、この授業では学年４期分割授業日程のＱ２（前期の後半）と夏季休業期間を通じた約３ヶ月を利用して短期の海外留学を行い、日常英語の集中的な訓練、大学での英語による専門科目の講義の聴講、大学の研究室または会社等におけるインターンシップを行う。

■受講学生が達成すべき目標

この授業では、以下の能力を修得することを目標とする。１）日常生活における英語によるコミュニケーションが不自由なく行える、２）各自の専門分野において、英語を主なコミュニケーション手段とする環境にある大学の研究室、または会社のオフィースでの日常的な活動が支障なく行なえる、３）異文化を理解し、受け入れる態度が身についている。

■成績の評価基準

研修終了後に以下の条件を満足すること。１）ＴＯＥＩＣの点数が履修前よりも明らかに高くなっていること、２）海外の大学の研究室、または会社の研修で行った課題について英語で書いたレポートを提出すこと、また英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行うこと。
成績は、帰国後のＴＯＥＩＣの点数、課題のレポートとプレゼンテーション、質疑応答の内容により総合的に評価する。

■受講要件

履修は、理工学研究科で実施する「大学院理工系イノベーション海外研修」の参加者に限る。またこの科目の履修取り下げは、参加中止などを除き、原則として認めない。

■受講要件

履修は、理工学研究科で実施する「大学院理工系イノベーション海外研修」の参加者に限る。またこの科目の履修取り下げは、参加中止などを除き、原則として認めない。

■授業計画

授業日程のＱ２（前期後半）と夏季休業期間を利用して、２ヶ月以上の海外での研修等を含み、以下のことを行う。
１．事前指導（大学の研究室や会社でのインターンシップの課題の検討を含む）
２．日常英語の計画的な学習
３．大学での英語による専門科目の講義の聴講
４．大学の研究室または会社等におけるインターンシップ
５．インターンシップの課題についての英語のレポート作成と英語でのプレゼンテーション
６．ＴＯＥＩＣの受験

■授業時間外学習

■参考書・教科書

教科書：特に指定しない
参考書：随時配布する

■オフィスアワー・その他

■学科の学習・教育目標との関連

■修得しておくべき科目・必要な予備知識

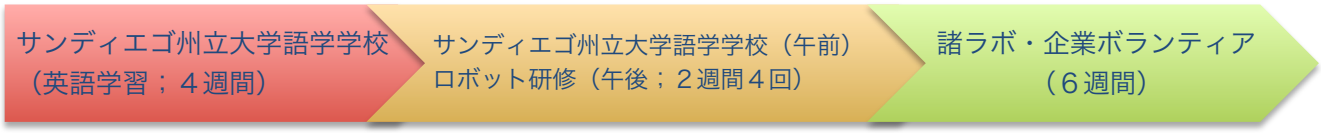
海外で生活するのに必要な最低限の英語によるコミュニケーション能力（ＴＯＥＩＣ　４５０点以上）があること。

3.2　既設海外研修

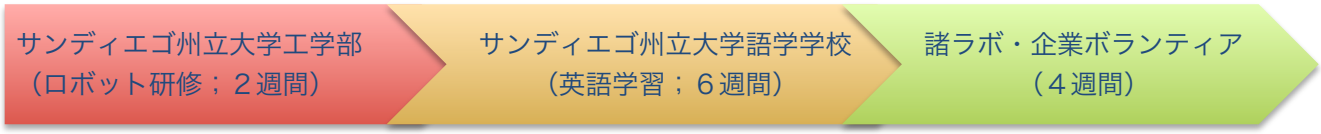
GOES カリフォルニア海外研修は平成２７年度から行った。平成２７年度のパターンは二つがあった。

サンノゼパターン：

サンディエゴパターン：



平成２８年度 GOES カリフォルニア海外研修のパターンが一つになった：



平成 28 年度の変更の事は、サンノゼ州立大学の語学学校のプログラムを６月６日から行った。６月６日は鹿児島大学理工学研究科の Ｑ１の試験、期末レポートと同じ時間だった。そのため学生にとって、サンノゼ州立大学の語学学校のプログラムへの参加は厳しい状況となった。サンノゼ州立大学工学部の Summer in Silicon Valley プログラムは平成２７年度＄3,000.00 だったが、平成２８年度には＄4,000.00 になったため、本プログラムを学生に勧めなかった。その結果、平成２７年度のサンノゼのパターンは実施しなかった。

サンディエゴのパターンは平成２８年度に少し変更した。平成２７年度の場合には、ロボット研修はラボ研修のみだった。元来、サンディエゴ州立大学工学部の研修は韓国の大学生為に作られていた。韓国の大学生研修は１ヶ月で、英語学習、地元学生交流、観光見学、とロボットラボ研修であった。鹿児島大学理工学研究科の Ｑ２は６月 13 日から始まったが、サンディエゴ州立大学附属語学学校のプログラムは７月５日から行った。そのため、サンディエゴ州立大学工学部に韓国の大学生研修より２週間短期研修を依頼し、語学学校のプログラムが行う２週間前に行った。（内容は下に参照）

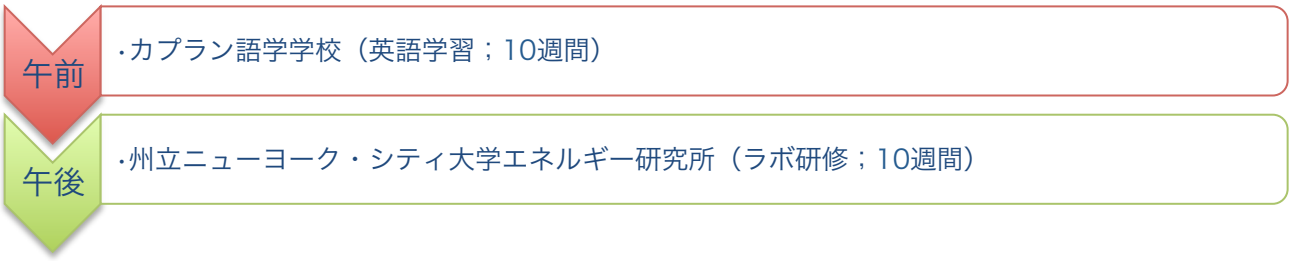
平成２７年度、ロボット研修の参加者からプログラム費用に対して学習内容が低いとの指摘を受けた。この点について改善するように促し、参加者は平成２８年度ロボット研修が学習内容の評価は前年度より向上したが、まだ低評価をつける学生もいた。低評価の理由は、大学院生の修士研究分野と学習内容はあまり関係ないということ、ラボ研修期間が短いとのことであった。よって、この２週間短期ロボット研修は、大学院生ではなく学部生に似合う可能性が高い。これを受けて、平成２９年度の大学院生海外研修予定は語学学校とラボ・企業ボランティアのみを行う予定である。一方学部生向けに 10 日短期ロボット研修を準備することにした。

3.3　新しい海外研修

A) GOES ノースダコタ海外研修

平成 26 年で鹿児島大学国際連携推進センターがノースダコタ州立大学で、学部生のために、「北米におけるグローバル人材育成」プログラムを行なった。そして、鹿児島大学理工学研究科の化学生命・化学工学専攻の先生がノースダコタ州立大学化学・生化学専攻でシンポジウムを行なった。この二つの関係から、新しい海外研修プログラムを作成した。ノースダコタ州立大学は付属語学学校がないため、同大学で「北米におけるグローバル人材育成」プログラムは英語学習とアメリカ文化授業を３週間で行った。このプログラムの担当者はノースダコタ州立大学農学部の教授だった。ノースダコタ州立大学工学研究科と関係がなかったが、鹿児島大学理工学研究科の化学生命・化学工学専攻の学生がノースダコタ州立大学化学・生化学教授のラボでボランティア研修に参加できた。もう一人の建築専攻学生がノースダコタ海外研修希望を申し込んだ。これに対し、ノースダコタ州立大学農学部教授から支援を頂いた。そのため、建築専攻学生はノースダコタ州立大学建築・造園学部にボランティア研修に参加できた。学生二人は最初の３週間で、学部生と「北米におけるグローバル人材育成」プログラム一緒に参加した。そのあと、ラボに７週間のボランティア研修を行った。学生はいい経験をしたが、ノースダコタ州立大学農学部教授に準備が大変だったとの連絡を受けた。その結果で、平成 29 年度のノースダコタ海外研修を行わないことにした。

B) GOES ニューヨーク海外研修



鹿児島大学理工学研究科が州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究所と MOU を結んでいる。この関係で、新しい GOES ニューヨーク海外研修を作成した。平成 28 年 3 月に、GOES ニューヨーク海外研修を作成のために、グローバル人材育成支援室のスタッフがニューヨークに現地調査を行なった。その時、州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究所、州立ニューヨーク・シティ大学建築学科、州立ニューヨーク・シティ大学附属語学学校と打ち合わせを行なった。平成 28 年４月から、GOES ニューヨーク海外研修の予定を作成した。本プログラムを作成では幾つかの困難があった。まず、州立ニューヨーク・シティ大学附属語学学校の主席員が突然変わったために、そうご連絡がしばらく失われた。GOES カリフォルニア海外研修の場合には、語学学校は宿所とビザを準備したが、州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究所の担当者は男子学

生ために寮を紹介したが、女子学生ための宿舎の紹介はなかった。ニューヨークにおける手頃な宿舎の手配は難しく、日本からリーゾナブルな宿舎は見つけられなかった。

また、語学学校のビザは F1 学生ビザのだが、州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究所のビザは J１研究者のビザだった。鹿児島大学理工学研究科の学生は両方取得可能だが、F1 学生ビザの方が準備しやすい。そのためには語学学校の支援が大事なことになる。州立ニューヨーク・シティ大学附属語学学校の連絡が途絶えたためこれを諦め、新たにカプラン語学学校を選定した。カプラン語学学校は世界中に語学学校を持ち、日本人を含め色々な留学準備の経験があった。

理工学研究科学生が州立ニューヨーク・シティ大学建築学科での研修を受けられるように努力した。カプラン語学学校と州立ニューヨーク・シティ大学建築学科の夏の授業を調べるために、グローバル人材育成支援室のスタッフ一人がもう一度ニューヨーク現地調査を行なった。カプラン語学学校で打ち合わせ、授業見学などを行なった。英語教育はプロフェッショナルで、学生支援のレベルも高く、ホームステイやビザも準備も上手にできていた。

州立ニューヨーク・シティ大学附属語学学校にも打ち合わせを行なったが、主席員が着任したてで、学生支援やホームステイ、ビザの準備は困難であると判断した。州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究所の担当者川路教授と打ち合わせを行った。鹿児島大学理工学研究科の海外研修希望者がシティ大学エネルギー研究所で研修に参加できることを川路教授が判断し、本プログラムは実施できることになった。

他一人のニューヨーク海外研修希望者は州立ニューヨーク・シティ大学建築学科の学習に参加希望のため、同大学建築学科に授業を見学し、大学院係長と打ち合わせを行った。その結果、同学科の夏の建築授業とタイミングが少し合わないこと、また州立ニューヨーク・シティ大学建築学科の英語能力の希望が TOEIC で７００点だった。この結果、州立ニューヨーク・シティ大学建築学科研修の準備を中止した。一方で、海外研修希望者の指導教員は個人関係の建築家会社のインターンシップを計画した。鹿児島大学理工学研究科学生３名は GOES ニューヨーク海外研修に参加した。この GOES ニューヨーク海外研修は良かったが、エネルギー研究者の以外に、研修内容の準備は困難であった。そのため、GOES 冬ニューヨーク海外研修のプログラムを準備したが、参加希望者はいなかった。理由は、エネルギー関係分野の M１学生は冬休みの後でも研究で忙しかったとのことであった。以上の経緯から、平成２９年度 GOES ニューヨーク海外研修はシティ大学エネルギー研究所のみを行うことにした。

C) GOES 冬サンノゼ海外研修

これまで全部の海外研修はＱ２夏予定だった。Ｑ２に研修を参加できない学生もいたため、もう一度１年間のスケジュールを検討した。Ｍ１の学生が冬休みの後で、研修義務を少し減らした場合、Q4 を使った海外研修は可能と判断した。具体的には、サンノゼ州立大学附属語学学校は １ 月 ９ 日から９週間のプログラムを行うので、学生がこのプログラムに参加したら、４月の就職活動が始まる前に、帰国可能であると判断した。さらに、鹿児島大学グローバルセンターから GOES 海外研修参加者の企業ボランティアに支援も頂いた。当初、GOES 冬海外研修の人数は少ないため、鹿児島大のみで研修先の手配は可能と判断したが極めて困難であった。サンノゼ州立大学附属語学学校の期間が長く、企業ボランティア研修は午後のみに限られ、企業は午後だけ行う研修を望まなかった。このような状況下で、鹿児島大学北米センター長から１名のボランティア企業を紹介いただいた。後１名は紹介業者 AZUSA 若井氏に依頼し、１社の受け入れ先が決まった。今回の海外研修計画作りは大変なことだったが、将来の参加者支援する為に、たくさん学んだ。冬 GOES プログラムにたいして、鹿児島大学北米センター長中谷教授のご協力に感謝いたします。（活動報告書を書く時、学生はまだサンノゼにいる。今回の海外研修の結果は平成２９年度の活動報告書に書く予定である。）

4. GOES 海外研修サポート

4.1 事前準備

GOES カリフォルニア海外研修

平成２７年度の年次報告書に記載されている内容と重複している内容があるので、本報告書では平成２８年度の変更及び要点を中心に記載する。GOES 海外研修に参加する学生が英語ゼミや事前準備会を行った。事前準備会は週１回行い、その内容は海外へ行くための書類作成、危機管理情報などである。英語の自習には、英語ビデオや音楽を聞く、You-Tube で英語授業を見る、グローバル人材育成室で英語の本を読むなどである。本年度は、学生の１割ぐらいしか一貫して英語自習課題をクリアしなかった（ただし自己申告）。自主課題学習をやり遂げる学生が少ない。そのため平成２９年度には、もう少し指導するように改善する。英語ゼミの内容は日常生活に当たる英語句、危機管理英語、文化関係英語（理由の説明方法；頼むことの肝要など）である。学生の英語能力を評価するために、海外研修を行う１ヶ月前に、TOEIC 試験を行った。（結果は英語でこの活動報告書の最後に説明する。）以上のように、学生が海外研修に行く前に準備した。

GOES ノースダコタ海外研修・GOES ニューヨーク海外研修

GOES カリフォルニア海外研修記載されている内容と重複している内容があるが、カルフォルニア研修よりの事前学習期間が短かった。そのため、事前準備会の代わりに、学生と必要に応じて打ち合わせを行なった。それから、英語ゼミの内容を減らしたし、英語自習力をつけた。それにもかかわらず、課題をクリアした、ただし自己申告学生が一人だけだった。

GOES 冬サンノゼ海外研修

GOES 冬サンノゼ海外研修の事前準備は１ヶ月だけだった。GOES ノースダコタ海外研修・GOES ニューヨーク海外研修事前準備より短かった。学生と必要に応じて打ち合わせを行なった。英語ゼミは３～４回行なった。英語自習力をつけたが、課題をクリアした学生はいなかった。１ヶ月事前準備は不十分で、さらに改善検討する必要がある。

4.2 現地支援

GOES カリフォルニア海外研修

サンディエゴ：6 月 18 日～22 日

サンディエゴ州立大学研修で、１１名が参加した。グローバル人材育成支援室のスタッフはサンディエゴ研修学生と一緒に行動した。今回サンディエゴ州立大学工学部ロボット研修は、語学学校が始まる２週間前に行った。森氏、工学部のスタッフが学生を支援したが、最初の５日間、グローバル人材育成支援室のスタッフが森氏、工学部のスタッフと共に、現地携帯電話購入など生活準備に関わるミニオリエンテーションを行った。

サンディエゴ：8 月 28 日～30 日

サンディエゴでは、就業体験研修をしている学生３名とミーティングを行い、研修の進捗状況確認と帰国時の注意事項を説明、研修先の見学も行った。その他、在サンディエゴ鹿児島大学友好大使・森　典之氏へ研修期間における学生支援の御礼・挨拶を行った。

学生達は仕事や英語でのコミュニケーションを通じて、戸惑うことがありながらも研修を順調にすすめていた。職場においては、学生自身が関心のある分野を伝えることによって、研修先スタッフが理解し学生が関心のある分野を学べるように導いてくれていると感じた。

研修先見学では、サンディエゴ州立大学美術学部の中村先生が経営している建築設計会社を見学した。私自身、現地企業の職場見学をする機会が数少ないこともあるが、日本で目にする職場環境とは全く異なっていて驚かされる。学生にとっては、その環境に身を置くだけでも刺激的な雰囲気を体感できると思う。研修先スタッフの方も学生に熱心に指導をして頂けていることが分かった。他にも、研修先 R.H. Fleet museum を見学した。ちょうど訪問した時には、学生が親子連れの見学者に装置を使いデモンストレーションを行っている最中だった。学生は就業体験研修を開始して３週間目に入っており、博物館見学者に対しての応対も慣れてきていた。

鹿児島大学友好大使･森氏より、今年度は学生とのコミュニケーションをとる機会が多かったとのことだった。今年は、研修開始し現地でのオリエンテーションでは学生と森氏との顔合わせの機会があり、学生にとっては安心して相談できる存在だったと感じる。

森氏より今回の学生とのコミュニケーションを通じて、今後、現地での学生支援をする上で参考になる点が多かったとのことだった。今年度は学生の帰国時に教員が引率しないため、森氏がサンディエゴ空港で学生の出発を見届けてくれるとのことだった。

サンノゼ：8 月 25 日～28 日

シリコンバレーベイエリアでは、就業体験研修をしている学生 8 名とミーティングを行い、研修の進捗状況確認と帰国時の注意事項を説明した。また、学生の就業体験研修において研修先や学生の滞在先手配をしている業者と海外研修実施に関しての協議を行った。

学生達は就業体験研修を開始し 3 週間目を迎えていた。研修先では順調に研修を行っていた。今回は、学生の専門分野と異なる分野の企業で研修をしている学生が多かった。IT 関係の企業で研修をしている学生からは、自身の専門分野においてどのように IT を結びつけ関係させていくことができるかを模索しているということだった。学生からは、アメリカに来て異分野を学ぶことについては、さまざまな意見が出てくる。しかし、学生達は置かれた環境で新しい分野を学ぶために、前向きに取り組んでいることが分かった。ある学生は、研修先において以前大学で学んだことのあった CAD を使用し作業をしていたが、研修先の課題に取り組むには高度な CAD スキルが求められ、毎日作業が片付かず遅くまで作業をしている学生もいた。

GOES ニューヨーク海外研修

ニューヨーク：8 月 20 日～24 日

ニューヨークでの海外研修は 1 回目の実施となるため参加学生（3 名）の引率・学生の生活支援、および州立ニューヨーク・シティ大学やカプランインターンナショナル（語学学校）訪問を行った。本研修期間において、学生達は個々にホームステイをしていたがクィーンズ地域に位置しており、語学学校があるマンハッタン・エンパイアステートビルまでは、地下鉄で 40 分程度かかる。ニューヨーク到着後の翌日（8 月 21 日）には、学生自身がホストファミリーに地下鉄乗車方法を聞き自身で地下鉄ルートを調べて、語学学校まで来ることができていた。語学学校開始日には事前の位置確認もされていたので学生達は問題なく登校することができていた。

学生達と州立ニューヨーク・シティ大学川路先生学生を訪問し研究室インターンシップの打合せを行った。同大学では、研究室でインターンシップを開始する前には、学内で実施されている安全講習会に参加の必要があるということだった。これに参加し証明書をもらった上で、実験に携わることができるということだった。後日、学生達は安全講習会の参加を終え、インターンシップを開始した。他にも、川路先生よりニューヨーク滞在に関しての治安上の注意事項があり、帰宅は夜 10 時迄が安全なのでは、ということだった。また、この研修を学生の見聞を広げる良い経験をして欲しいとの話があった。

州立ニューヨーク・シティ大学内には附属語学学校があり、同語学学校の担当者が学生達のためにオリエンテーションを開催し、学内を案内してもらった。ここでも、同大学の研修期間における治安に関しての注意事項が話された。同大学から最寄りの地下鉄の駅までは、徒歩 10 分程度の距離になる。日中は学生等の人通りがあるが、夜は人通りが少ないので同大学が運行しているバスの利用をすすめられた。同大学のバスは 24 時間運行になる。他にも、ニューヨーク近辺の散策情報などが話された。今回は、同語学学校での研修は行われないが、何か学内で困ったことなどがあればいつでも訪ねて来て構わないということだった。

GOES ノースダコタ海外研修

グローバル人材育成支援室の代わりに、鹿児島大学北米センターが学生を支援した。特に問題はなかった。グローバル人材育成支援室スタッフが MOODLE、または LINE のアプリで派遣学生の相談に答えた。

GOES 冬サンノゼ海外研修

グローバル人材育成支援室の代わりに、サンノゼ州立大学附属語学学校のスタッフが学生を支援した。特に問題はなかった。グローバル人材育成支援室スタッフが MOODLE、または LINE のアプリで派遣学生の相談に答えた。

4.3 フォローアップ

GOES カリフォルニア海外研修

GOES カリフォルニア海外研修の参加者は２回の研修経験を発表した。まず、GOES2016 報告会・シンポジウムプログラムで日本語、または英語で企業研修やボランティア研修の経験を発表した。そして、１週間後評価ために、先生たちの前に英語の発表を行った。なお、平成２７年度のように、海外研修中で書いたオンライン日記「Wiki」を提出し、TOEIC 試験も行った。（詳しい説明はこの本の最後で、英語のレポートをご覧下さい）。

GOES ノースダコタ海外研修・GOES ニューヨーク海外研修

GOES カリフォルニア海外研修のように、海外研修中で書いたオンライン日記「Wiki」を提出し、TOEIC 試験も行い、さらに研修経験を２回発表した。最初の発表は肝付町の町長に、肝付町地域発展計画を発表した。（4.4 GOES 海外研修財政援助に参照）そして、１週間後評価ために、先生たちの前に英語の発表を行った。

GOES 冬サンノゼ海外研修

GOES カリフォルニア海外研修のように、海外研修中で書いたオンライン日記「Wiki」を提出した。TOEIC 試験と発表は平成２９年度に行う。

4.4 GOES 海外研修財政援助

2016 年大学院理工系イノベーション海外研修参加学生対象支援金受給状況
2016 年において本海外研修参加の学生（16 名）が受給した支援金は次のとおりになる。

- 鹿児島大学学生海外研修支援事業
  - 大学院理工系イノベーション海外研修（カリフォルニア）研修参加者 11 名受給

- 鹿児島大学『進取の精神』支援基金　学生海外派遣事業（長期派遣留学）
  - 大学院理工系地域イノベーション海外研修（ノースダコタ）　2 名受給
  - 大学院理工系イノベーション海外研修（ニューヨーク）　2 名受給
  - 大学院理工系イノベーション海外研修（サンノゼ）　2 名受給

- 平成 28 年度日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）　2 プログラム採択
  - 採択プログラム名：大学院理工系イノベーション海外研修（カリフォルニア、ニューヨーク）
    奨学金支給割当人数 30 名
  - 採択プログラム名：大学院理工系地域イノベーション海外研修（ノースダコタ）
    奨学金支給割当人数 10 名
  - 大学院理工系イノベーション海外研修（カリフォルニア、ニューヨーク）
    （実績）奨学金受給人数 14 名
  - 大学院理工系地域イノベーション海外研修（ノースダコタ）
    （実績）奨学金受給人数 2 名

次の 3 研修プログラムでは、グローバルな視点からローカルな課題解決に取り組むことができるグローカルな人材の育成を目指している。これは、地域貢献活動の一環として、鹿児島県内の自治体が抱える課題について調査研究を行い、グローバルな視点からローカルな問題について考察させ解決策を自治体へ提案する。

- 地域貢献活動実施の研修一覧
  - 1 大学院理工系イノベーション海外研修プログラム：ニューヨーク研修
  - 2 大学院理工系地域イノベーション海外研修プログラム：ノースダコタ研修
  - 3 大学院理工系イノベーション海外研修プログラム：サンノゼ研修

ニューヨーク、ノースダコタ研修

本研修に参加をした学生は、鹿児島県肝付町を調査対象として、高齢化が進んでいる肝付町の地域活性化に取り組んだ。

➢ 事前調査

廃校の小中学校、内之浦宇宙空間観測所、二階堂家住宅、町内空き家などを見学した。町長をはじめとする職員との意見交換を行い、肝付町が抱える課題を把握した。

参加学生（5 名）は事前調査で得た課題を理解し各自が独自のテーマを設定し、海外からみた肝付町の課題解決を図る。

- 事前調査日：2016 年 7 月 13 日
- 参加人数：研修参加学生 4 名

➢ 調査発表会

- 報告日：2016 年 11 月 25 日
- 発表者：研修参加学生 5 名
- 出席者：肝付町町長、同町職員、グローバル人材育成支援室室長、室員

研修参加学生は、各自で準備したテーマにそってポスターを作成し肝付町町長や同町職員へポスター発表を行った。発表では、事前調査で肝付町にある観光資源の素晴らしさを知っている学生からは、肝付町の観光資源の知名度をあげることで多くの人を肝付町に呼び込む提案した。自身の研究でパワーアシスト装置の開発をしている学生は、肝付町の農家の高齢化と担い手不足への対策として、農家の方々がパワーアシストを装着し農作業をすることで身体にかかる負担の軽減を提案した。

肝付町町長より学生目線によるユニークな提案があり、新しい肝付町の発見もでき素晴らしい機会になり今後の参考としたいたとのことだった。

サンノゼ研修

本研修に参加の学生は、シリコンバレーベイエリアにおいて鹿児島県産品薩摩焼の紹介や海外の人から鹿児島県産品に対しての反応を調査した。また、同エリアや現地企業における IOT 事業や動向に関して調査した。

➢ 事前調査

鹿児島県工業技術センターを訪問し鹿児島県産品の情報を集めた。また、同センターでは IOT 研究会があり担当者の方より鹿児島県内企業おける IOT の現状について話を伺った。

- 事前調査日：2016 年 12 月 16 日
- 参加人数：研修参加学生２名
- 備考：調査発表会は研修終了後に行うため次年度の実施となる。

5. 平成２９年度 GOES 海外研修の募集

5.1 説明会・面接

平成２８年度海外研修
GOESニューヨーク・ノースダコタ海外研修の説明会：４月27日（木）
GOESニューヨーク・ノースダコタ海外研修の面接：　５月２０日（金）5名

GOES冬サンノゼ海外研修の説明会：10月６日（木）
GOES 冬サンノゼ海外研修の面接：10 月 21 日（金）２名

平成２9 年度海外研修の説明会：
第一回：11 月 24 日（木）
第二回：1 月 20 日（金）
第三回：2 月 22 日（金）合同

平成２９年度海外研修の面接：
12 月 22 日（木）5 名
3 月 13 日（金）４名

5.2 GOES 2016 報告会・シンポジウムプログラム

開催日時：2016 年 9 月 26 日　月曜日
開催場所：稲盛会館
対象：鹿児島大学全学生、全教職員
GOES 海外研修の情報を鹿児島大学全学生、全教職員に発信するために、理工学研究科平成 28 年度大学院理工系イノベーション海外研修カリフォルニア Graduate Overseas Engineering and Science Studies for Innovation GOES2016 報告会・シンポジウムプログラムを行なった。（内容を下に参照）

第１回理工学研究科

グローバル人材シンポジウム

Kagoshima University Graduate School of Science and Engineering
Global Development Office
099-285-3060　globaljinzai@gm.kagoshima-u.ac.jp
国立大学法人鹿児島大学　大学院理工学研究科
グローバル人材育成支援室

第１部：平成 28 年度理工系イノベーション海外研修カリフォルニア研修報告会

海外インターンシップ報告会：9 月 26 日（月）、稲盛会館

1	9：30〜9：35	**挨拶**：グローバル人材育成支援室　室長　小山　佳一　教授			
	9：35〜10：45	**GOES 2016 参加者**	**専攻**	**参加の場所**	**参加の会社**
	カリフォルニア	[redacted]	機械工学	サンディエゴ・サンノゼ	[redacted]formation Technology Center
	インターンシップ	[redacted]	機械工学	サンディエゴ・サンノゼ	[redacted]ec America
	報告Ⅰ（6名）	[redacted]	海洋土木工学	サンディエゴ・サンノゼ	S[redacted]a Inc.
		[redacted]	海洋土木工学	サンディエゴ・サンノゼ	[redacted]utions America
		[redacted]	海洋土木工学	サンディエゴ	[redacted]tects
		[redacted]	建築学	サンディエゴ	H[redacted]ulting Engineers
	10：45〜11：00	休憩			
2	11：00〜11：50	**GOES 2016 参加者**	**専攻**	**参加の場所**	**参加の会社**
	カリフォルニア	[redacted]	化学生命・化学工学	サンディエゴ・サンノゼ	[redacted]ntek Corp.
	インターンシップ	[redacted]	生命化学	サンディエゴ・サンノゼ	N[redacted]Food Service
	報告Ⅱ（5名）	[redacted]	生命化学	サンディエゴ・サンノゼ	[redacted] Engineering
		[redacted]	生命化学	サンディエゴ・サンノゼ	[redacted]S.A.
		[redacted]	地球環境科学	サンディエゴ	[redacted]Museum
	11：50〜13：00	昼食：休憩			

第２部：第１回理工学研究科グローバル人材シンポジウム：9 月 26 日（月）、稲盛会館

3	13：00〜13：03	**開会の辞**：グローバル人材育成支援室 副室長　木方　十根　教授			
	13：03〜13：10	**研究科長挨拶**：近藤　英二			
	13：10〜13：20	**来賓挨拶**：グローバルセンター　センター長 鈴木　英治　教授			
	13：20〜14：20	**基調講演**：「企業が求めるグローバル人材」（株）牧野フライス製作所　柏木　匡毅様			
4	14：20〜15：10	**講演**：「留学のすすめ」　グローバル人材育成支援室 副室長　木方　十根　教授			
	15：10〜15：20	休憩			
	15：20〜16：10	**留学経験学生**	**専攻**	**留学場所**	**プログラム**
	理工学研究科	[redacted]	情報生体システム工学	サンノゼ	GOES 2015
	留学経験学生	[redacted]	建築学	サンディエゴ	GOES 2015
	による発表	[redacted]	建築学	シドニー	派遣留学
	「留学のすすめ」	[redacted]	物理・宇宙	キャンベラ	トビタテ留学 JAPAN!
	（5 名）	[redacted]	電気電子工学	セブ	個人的な留学
5	16：10〜16：55	**パネルディスカッション**：「留学で感じるグローバル人材」			
	16：55〜17：00	**閉会の辞**：グローバル人材育成支援室　室長　小山　佳一教授			

GOES 2017

冬 カリフォルニア

1月7日～3月12日
9週間

- 語学学校
- インターンシップ

¥ 900,000 ～
¥1,000,000*

24万～ 支援可能あり

冬 ニューヨーク

1月16日～3月19日
9週間

- 語学学校
- エネルギー関係ラボ研修

¥ 900,000 ～
¥1,000,000*

30万～ 支援可能あり

夏 カリフォルニア

7月1日～9月25日
12週間

- 語学学校
- インターンシップ

¥ 1,250,000 ～
¥1,300,000*

24万～ 支援可能あり

夏 ニューヨーク

7月8日～9月25日
11週間

- 語学学校
- エネルギー関係ラボ研修

¥ 1,100,000 ～
¥1,250,000*

30万～ 支援可能あり

* この研修費用は前年度の実績をもとに算出しておりますので、今後、費用が変動することがあります。
**上記の支援を受けるには要件があります。

グローバル人材育成支援室の日程

9月26日（月）： グローバル人材　シンポジウム	11月16日（水）： 第1回 GOES 夏海外研修説明会
10月6日（木）： GOES 冬海外研修説明会	12月2日（金）： 第2回 GOES 夏海外研修説明会
10月17日（月）：GOES 冬海外研修申し込み締切日	12月9日（金）： GOES 夏海外研修申し込み締切日
10月20・21日（木・金）：GOES 冬海外研修面接	12月15・16日（木・金）：GOES 夏海外研修面接

海外研修フローチャート

グローバル人材育成支援室は何だろうか？

Study Abroad Counseling	English Study Support
✓ 海外研修相談	✓ 英会話ワークショップ
✓ 海外研修準備	✓ 英語発表支援
✓ 海外研修企画	✓ 英語論文支援
✓ 海外滞在中の安全	✓ English chat time

いつでも会いに来てね！

化学生命　3F
304・藤崎　文乃
303・ボウ　コーザー

懇親会：平成 28 年 9 月 26 日

日時:平成 28 年 9 月 26 日 18:00~19:30 場所:鹿児島大学の教育食堂(エデュカ)

進行: 18:00~18:05 開会挨拶 グローバル人材育成支援室 室長 小山 佳一

18:05~18:15 挨拶 理学部同窓会 有馬 一成

18:15~18:20 乾杯 理工研究科長 近藤 英二

18:20~18:45 歓談

18:45~19:00 自己紹介 GOES 参加者・留学生参加者

19:00~19:25 歓談

19:25~19:30 閉会挨拶 グローバル人材育成支援室 副室長 木方 十根

支援：理学部同窓会・工学部同窓会

6. 英語学習支援

平成２８年度の英語教育は平成２７年度と少し変更した。平成２８年度は、イングリッシュワークショップは４週間、週１回、６０分のセッションを行った。ただし、セッションの間に、１～２週間の休みを設けた。教授会と同じ日時、水曜日午後に行った。レベルをビギナーとアドバンスドの２つに分けた。ビギナーは、TOEIC 500 点以下で会話に不安がある学生のためのものである。アドバンスドは、TOEIC 500 点以上で、会話が好きな学生のために設けた。セッションの内容は募集ポスターやメールなどでアナウンスした。受講する学生は自分でレベルを決めて登録する。このようなシステム変更の結果、参加者が増えた。最初セッションは夏休み中で参加者がいなかったが、秋ワークショップでは、ビギナー５名とアドバンスド１０名の学生が参加した。冬ワークショップでは、ビギナー５名とアドバンスド５名の学生が参加した。春休みで行うワークショップは２名の参加者があった。このように試行錯誤しながら、受講生の多いワークショップ法を発見した。

上述の構造的なワークショップを行ったが、サロン的英語教育を望む学生もまだ残った。その学生の為に、「English Chat Time」を週１回６０分で行った。２～３名は時として参加もあったが、通常は１名の参加であった。参加者は会話のテーマを決めたが、先生も自由で話す事があった。そのように、学生と先生ではなく、人間二人の会話になった。ほとんどそれは良い結果だったが、話す時間は伸びやすく、個人情報もたまに出て来た。サロン的英語教育は、受講生が多くなれば曖昧になった。検討の結果、「English Chat Time」をしばらく中止することとした。サロン的英語学習を望む学生はに、鹿児島大学の「Language Space」を知らせることにした。

他の英語教育支援は学生や先生の英語論文の校正を行った。

Summer English Workshop

今年夏休み中、英会話を勉強しましょう！

4 週間・火曜日　13：30　～　14：45　化学生命工学科棟 42 教室

8 月 31 日　Planning the Perfect Vacation: Travel Reservations
9 月 7 日　休み
9 月 14 日　Solving Travel Problems
9 月 21 日　Giving & Getting Directions
9 月 28 日　Your Country, My Country: Culture

登録は 8 月 22 日から 9 月 14 日までです。

登録方法：メール：bcauser@gm.kagoshima-u.ac.jp
件名：Summer English Workshop
内容：名前、学科、学年、連絡情報、英語目標

無料です！

Autumn English Workshop I

涼しい秋に、英会話を勉強しましょう！

Level: Beginner/入門
4 週間・水曜日　13:20　～　14:20　化学生命工学科棟 42 教室

10 月 12 日　Who is it?　・　誰ですか？
10 月 19 日　Let's ask questions!　・　質問を聞きましょう！
10 月 26 日　Let's answer!　・　答えましょう！
11 月 2 日　Let's ask for things!　・　色々を頼もう！

登録は 9 月 30 日から 10 月 12 日までです。

登録方法：メール：bcauser@gm.kagoshima-u.ac.jp
件名：Autumn English Workshop 1
内容：名前、学科、学年、連絡情報、英語目標

無料です！

Winter English Workshop

暖かくなる、英会話を勉強しましょう！

Level: Advanced
4 週間・水曜日　14：30　～　15：30　化学生命工学科棟 42 教室

11 月 30 日　Formal vs. Casual English
12 月 7 日　Giving & Following instructions
12 月 14 日　Describing work
12 月 21 日　Festivals around the world

登録は 11 月 22 日から 11 月 30 日までです。

登録方法：メール：bcauser@gm.kagoshima-u.ac.jp
件名：Winter English Workshop
内容：名前、学科、学年、連絡情報、英語目標

無料です！

Spring English Workshop

花のように、英会話能力を咲いている！

Level: Beginner
4 週間・水曜日　15：00　～　16：00　化学生命工学科棟 42 教室
3 月 1 日　Japanlish vs English
3 月 8 日　Things I like/ Things I don't like
3 月 15 日　Where am I?
3 月 22 日　Telling others about Japan

Level: Advanced
4 週間・水曜日　16：10　～　17：10　化学生命工学科棟 42 教室
3 月 1 日　Is it English or Japanese?
3 月 8 日　Explaining WHY?
3 月 15 日　Going Places
3 月 22 日　Talking about your cultural background

登録は 2 月 22 日から 3 月 1 日までです。
登録方法：メール：bcauser@gm.kagoshima-u.ac.jp
件名：Spring English Workshop (Beginner / Advanced)
内容：名前、学科、学年、連絡情報、英語目標

無料です！

ENGLISH CHAT TIME

Have you been abroad?

Do you want to keep up your English level?

Meet every Wednesday from 10:30 ~ 11:30

3F Chemical Engineering Building 2, Room 303

(We'll move to an available classroom if the group is big)

Please bring topics to talk about!

You won't believe what I saw yesterday!

Are you gonna tell me about it?

Mail Bo if you have any questions: bcauser@gm.kagoshima-u.ac.jp

7. グローバル人材育成

海外研修の以外に、グローバル人材育成支援室の支援として、外国人客員研究員との打ち合わせに関わる通訳や、留学生サポートを行った。2016 年度の鹿児島大学工学部建築学科・フィンランドのアアルト大学・学外実習行程表：国際交流、各見学先での解説とワークショップを支援した。そして、グローバル人材育成支援室の計画発展する為に、「地域イノベーション成功と起業家創出の秘訣」－米国サンディエゴの事例に学ぶ－のゼミに参加した。主催は在福岡米国領事館、公益財団法人九州経済調査協会、九州大学/ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センターだった。計画の進展によって、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校のメアリー・ウオルショック博士講演者と九州大学/ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センターの谷口先生への相談も可能とのことであった。（ゼミの内容を下に参照）

開催概要

演　題

「地域イノベーション成功と起業家創出の秘訣」－米国サンディエゴの事例に学ぶ－

次　第

14:00-14:15　主催者挨拶
14:15-15:30　メアリー・ウオルショック博士講演
15:30-16:00　質疑

言　語

日英逐次通訳

日　時

2016年12月19日（月）　14：00～16：00

講　師

メアリー・ウオルショック博士 (Dr. Mary L. Walshok)

米国カリフォルニア大学サンディエゴ校/パブリック・プログラム　アソシエイト・バイス・チャンセラー、エクステンション長

1984年、地域イノベーション推進の産学官連携織,CONNECTプログラムを立ち上げ、地域の産業界やと地域政府と協力しつつ、地域からニュービジネスを輩出するための数多くのプログラムを起ち上げた。その結果サンディエゴ地域を、全米、いや世界有数のハイテククラスター地域とすることに成功している。彼女はその立役者、リーダーである。なお彼女は地域イノベーションの専門家・推進者であると同時に、100を超えるイノ　ベーション経済や地域経済の成長と発展に関する記事・レポートを執筆している。

セミナー内容

インターネットの発達によって国境の意味は小さくなり、世界の経済はグローバル化が進んでいます。その一方、大都市への人口や情報の一極集中でなく、豊かで活力有る地方創生の重要性が謳われ、地域レベルのイノベーションの取組が見直されています。

イノベーション先進国の米国においても、シリコンバレーを始め、全米各地域において大学を核としたイノベーションクラスターが発展し、米国経済を支えています。そのような中で米国西海岸のサンディエゴ地域は、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)を核として、地域の産官

そこで今回は、この CONNECT の創始者で UCSD のエクステンション長である、メアリー・ウオルショック博士(Dr. Mary L. Walshok)をお招きし、地域イノベーション推進においてサンディエゴの産官学連携が果たした役割や実績をお聞きします。九州・福岡におけるイノベーション実現のあり方を考えるきっかけとなれば幸いです。 多くの方のご参加をお待ちしています。

※CONNECT サンディエゴのスタートアップ企業と投資家コミュニティーをつなぐ産官学連携組織

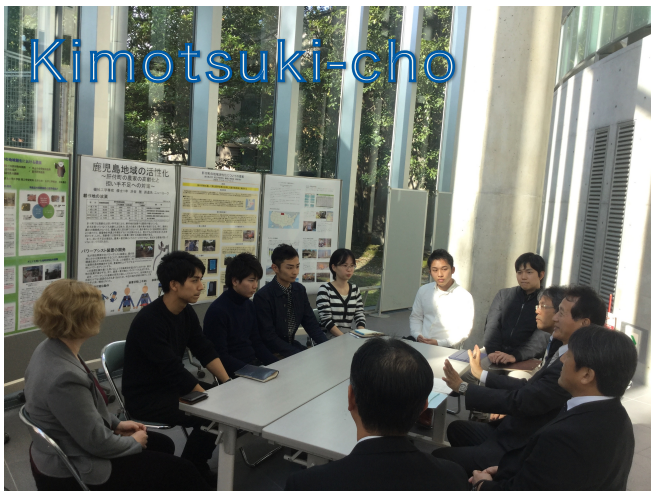
CONNECT * http://www.connect.org/

平成２８年度 GOES 海外研修参加学生状況			
学生の専攻名	研修地域	就業体験研修先	大学院終了後の進路
建築学１年生	サンディエゴ	KPFF Consulting Engineers	N/A
地球環境科学１年生	サンディエゴ	Reuben H Fleet Science Center	N/A
海洋土木工学１年生	サンディエゴ	RNT Architects	N/A
海洋土木工学１年生	サンディエゴ・サンノゼ	日立ソリューションズ	N/A
海洋土木工学１年生	サンディエゴ・サンノゼ	Saki America, Inc.	N/A
機械工学 １年生	サンディエゴ・サンノゼ	Disco Hi-Tec America Inc.	N/A
機械工学 １年生	サンディエゴ・サンノゼ	Toyota Information Technology Center	N/A
生命化学１年生	サンディエゴ・サンノゼ	Canon U.S.A. Inc.	N/A
生命化学１年生	サンディエゴ・サンノゼ	Nippon Trends Food Service Inc.	N/A
生命化学１年生	サンディエゴ・サンノゼ	Hexel Tech Engineering	N/A
化学生命・化学工学１年生	サンディエゴ・サンノゼ	Senju Comtek Corp.	N/A
化学生命・化学工学２年生	ノースダコタ	ノースダコタ州立大学 Department of Chemistry and Biochemistry, Sibi 研究室	株式会社日本触媒
建築学２年生	ノースダコタ	ノースダコタ州立大学 Department of Architecture and Landscape Architecture, Bertolini 研究室	株式会社南日本放送
建築学２年生	ニューヨーク	Studio Sumo	株式会社日建設計
機械工学 １年生	ニューヨーク	州立ニューヨーク・シティ大学 川路研究室	N/A
機械工学 １年生	ニューヨーク	州立ニューヨーク・シティ大学 Xiao 研究室	N/A
機械工学 １年生	サンノゼ	Innovation Matrix Inc.	N/A
機械工学 １年生	サンノゼ	Susumu International U.S.A Inc	N/A

AMERICAN
LANGUAGE
INSTITUTE
San Diego

CHASE
New York

North Dakota


Kimotsuki-cho

ASK
Konshinkai

Lyons 大学

San Jose

Aalto 大学

平成 27・28 年度：理工系国際コミュニケーション海外研修授業・教育レポート

The learning objectives as stated in the syllabus for the for-credit partner course (理工系国際コミュニケーション海外研修) for Graduate Overseas Engineering and Science Studies for Innovation (GOES) program are: to gain the language skills necessary for daily life abroad; to develop the necessary communication skills to participate in scientific or engineering research and development overseas; and to gain the cultural understanding to be able to interact with people from other countries. The evaluation is drawn from TOEIC scores, a written record, and an oral presentation. To date, 29 students have participated in the course, traveling to California, North Dakota, and New York, with another session of the course to be run in 2017. The table below shows the duration and location of study, to date. The location of the lab/workplace experience is not specified. Except for one case, student volunteer placement was in the same State, and it is thought that a change in city location for the work placement would have negligible impact on language learning. This report details the educational procedures and outcomes for the students who participated in the course from June 2015 to October 2016. Through all stages of the overseas studies program, from pre-departure preparation to post-return, student education was heavily emphasized.

Location & Duration of Study abroad					
# of students	Location of Language School & University	Language School	University program	Lab/Workplace experience	Total time abroad
4	San Jose（2015）	5 weeks	3 weeks	6 weeks	14 weeks
9	San Diego（2015）	6 weeks	4 days	7 weeks	14 weeks
11	San Diego（2016）	6 weeks	2 weeks	4 weeks	12 weeks
2	New York（2016）	10 weeks	--	9 weeks	10 weeks
1	New York（2016）	7 weeks	--	4 weeks	7 weeks
2	North Dakota（2016）	--	3 weeks	7 weeks	10 weeks

Pre-departure education

Pre-departure education focused primarily on preparing students for their time abroad. They met weekly and were given safety training, including how to ask for assistance in English, how to ask for medical help, the importance of being aware of their surroundings and looking out for each other. They were also given cultural training, including making

their needs and wants known clearly, how to say 'no' politely and more forcefully if necessary, and how to ask about the needs and wants of others. Issues of gender, sexuality, special needs, and multiculturalism were also raised. An emphasis was placed on the fluid and individual nature of social etiquette in the USA, and care was taken to be sensitive to the students' comfort level while also making them aware of the need to be open and sensitive to situations that they may not be familiar with.

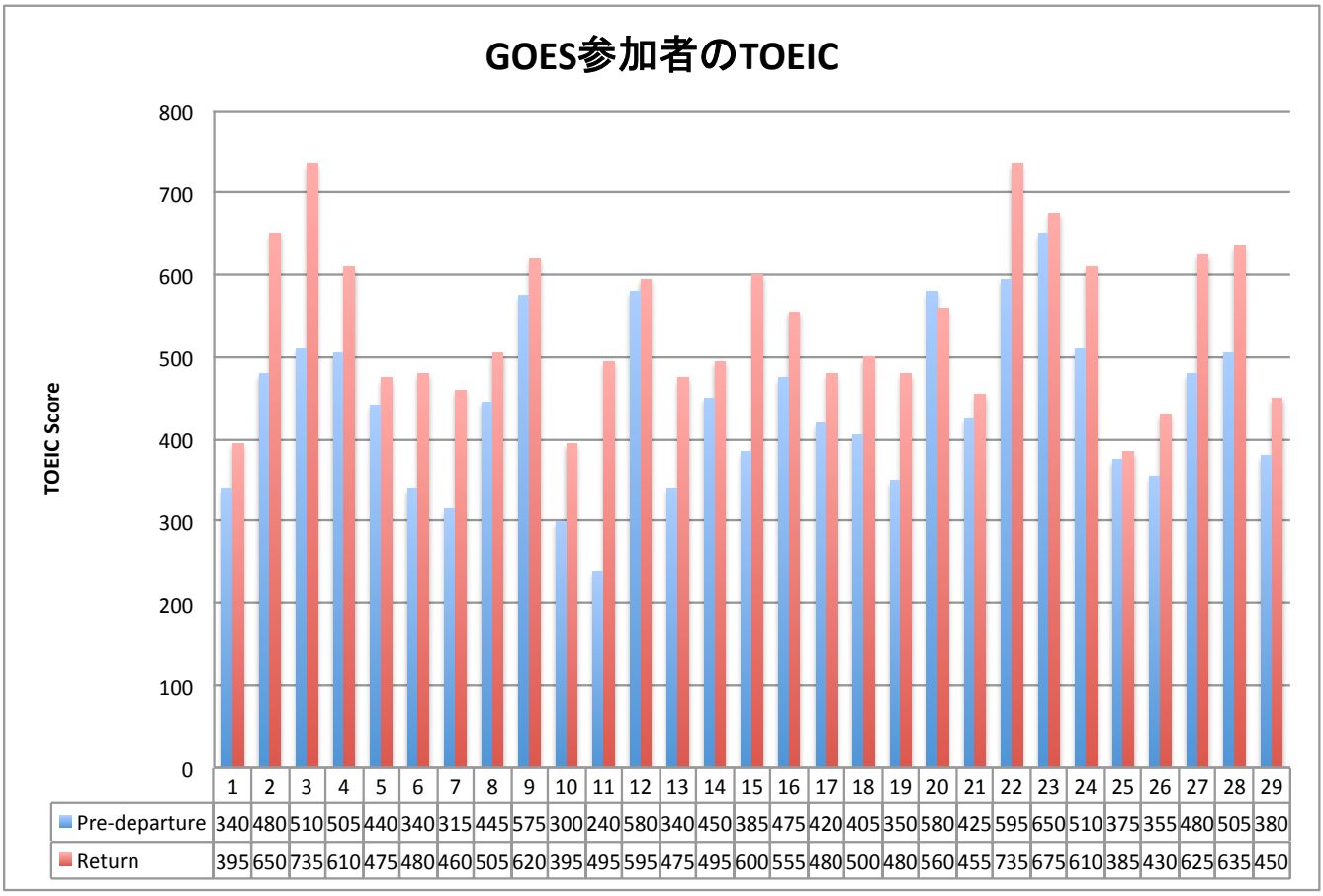
Students were also encouraged to commit to a self-study plan to boost their English prior to arriving in America. To reinforce their learning, they formed study groups to motivate and encourage each other to stick to their study plans. This was effective in that students did attempt to study English on their own, and were aware that they needed to study more. For a few already highly motivated students, the approach was highly effective, and for the few who failed to attend tutorial sessions regularly, it was less effective. However, returning students overwhelmingly recommended to the upcoming cohort that they study English as much as possible prior to departure. The students saw the pre-departure English study opportunity as valuable in hindsight, but not all were able to take full advantage of the English study support as they prepared to go abroad.

TOEIC scores

In the early stages of preparation, the students' tested English ability was self-reported. Some students had TOEIC scores, while others only had the university-run G-TELP scores. In any case, the level of English ability in students who have participated to date was wide-ranging, with only two students reporting a TOEIC score of above 600 on their program application forms, and at least half the applicants reporting scores below the recommended TOEIC 450 for course participation. These were the students most in need of pre-departure English training, but these were also the students who had the most difficulty sticking to their study plans. This suggests that having difficulty on follow-through for English self-study has been a long-standing problem for these students, resulting in low ability despite 6-9 years of English study.

Approximately a month before leaving Japan, students took a TOEIC IP reading/listening test to provide a baseline of English ability. They were tested again approximately a month after returning. On the graph below, pre-departure scores are shown in blue and return scores are shown in red. On the whole, student scores improved significantly, however

there was some variation. Factors potentially affecting the score will be discussed below.



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
Pre-departure	340	480	510	505	440	340	315	445	575	300	240	580	340	450	385	475	420	405	350	580	425	595	650	510	375	355	480	505	380
Return	395	650	735	610	475	480	460	505	620	395	495	595	475	495	600	555	480	500	480	560	455	735	675	610	385	430	625	635	450

Students 1-4 studied English at San Jose State University in 2015. Their scores show a large increase. Whereas San Diego State University's language school, which has little or no homework, and which is focused on enjoying language study, the SJSU course is geared to academic English for students hoping to enter SJSU, and there are 1-2 hours of homework every day. This may explain the significant score increase. Student 4's work experience was in Southeast Asia, rather than in America, however it is unknown what impact this had on their English learning. Student 1 had the smallest score increase of SJSU students, but they also demonstrated significant language learning difficulties during the pre-departure English study phase, which would account for the smaller increase. In general, students who demonstrated significant language or general learning difficulties during the pre-departure English study phase also had smaller increases, regardless of their base score.

Students 25 and 26 studied English at a private language school in New York while spending afternoons in a lab at City College of New York, and did not show significant

increase. Both students 25 and 26 demonstrated some language learning difficulties during the pre-departure English study phase. Student 27 studied English at the same language school in New York, and participated in a work experience placement in the afternoons. Their score increased significantly, despite their shorter study term, and they also demonstrated a facility for language learning during the pre-departure English study phase.

Students 28 and 29 did not study at a language school, but rather participated in a 3-week Global Education program at North Dakota State University. The remainder of their time (7 weeks) was spent in lab internships at NDSU. After the Global Education program at NDSU ended, these two students were the only Kagoshima University students at NDSU. According to self-reported data, student 29 sought out and spent time with other Japanese students on campus, whereas student 28 spent time with American students wishing to study Japanese. It is unknown how this affected their learning, however student 28's score improved considerably more than student 29's score did.

The remainder of the students studied English at San Diego State University's language school (5-13 in 2015, 14-24 in 2016). Student 20 was the only student whose score decreased on return. This was due to the student being ill on the day of the return test. Both students 11 and 15 were unwell on the day of the pre-departure test. Due to student condition, test conditions, and other variables, TOEIC scores, while useful as a basic measure of ability, do not give a complete picture of student language improvement. To create a more robust picture of student improvement, students were also responsible for producing a written report about their study abroad experience, as well as an oral presentation.

Wiki Journal

One of the problems with a 3-month program is that students are likely to forget the early stages when writing a report at a later date. It was therefore decided that students would keep a journal about their experience, and that this would be evaluated as part of their accreditation. In order to monitor student progress in real time, the journal took the form of an online Wiki, which was located in the protected environment of the school Moodle VLE. In addition to allowing for real-time monitoring, the Wiki also allowed students to add photos, links, or videos if they wished to do so. While some students added photos, most did not make use of the flexibility that an online platform allows. It is thought that this is due

to the students being unused to using digital media in an academic setting. Students were required to write two entries a week. They were given one topic, and free to choose the second. It was strongly recommended that each entry be at least 200 words. The requirements were explained to the students in tutorial sessions, and they were shown how to use the MOODLE platform.

In addition to creating a record of their overseas experience, the Wiki allowed the staff to address any personal or general concerns that the students raised, in a timely fashion. Once the students participating in the GOES overseas training returned, they submitted their Wikis for evaluation. The set topics were designed to encourage reflection and corresponded to activities that the students were participating in each week. Examples of set topics were:

What did you learn in orientation this week?
Tell us about your classmates.
How are American English lessons different from Japanese English lessons?
So far, what differences do you notice between Japan and America?

On the whole, students answered sincerely and with good detail, and even students with weak English skills responded. In the free topic, students often expanded on issues raised in the set topic, or told stories about events they attended with host family members and new friends.

About a third of students in each cohort had trouble keeping the pace of two entries a week, though only a few had trouble with the 200-word recommendation. The students who fell behind were encouraged at regular intervals to catch up, and were given time after returning to complete the entries. In the first year, two students had significant trouble keeping up with and submitting the Wiki. In the first case, the student had difficulty with composition even in their native language, and their Wiki entries were short and disjointed. In the second case, the student appeared to have been keeping an e-mail journal with his supervising professor in Japanese, and what was submitted could best be described as a technologically aided translation of their Japanese correspondence. This was sufficient for evaluation, however it is questionable as to how much students can develop their language with the aid of translation software; although grammar translation has long drawn strong criticism as a language learning method, learning with the aid of translation software has not been sufficiently studied.

In the second year two students were unable to submit the Wiki; one case was the same as above; the student appeared to have been keeping an e-mail journal with his supervising professor in Japanese, and the other claimed to have stored their data on a USB memory stick rather than on the Moodle site, and had lost the USB memory stick. Neither translation of the Japanese data or re-creation of the lost data were deemed to be constructive use of student time, the students were asked to participate in an hour-long pair interview about their overseas experience, with most of the questions stemming from the target Wiki topics. This turned out to be a highly successful alternative, as the students were able to deeply reflect on their experiences, sometimes asking each other questions to learn more about each other's experiences. By interviewing the students together, they were more engaged since they were listening and responding to each other, and not just performing for the teacher. The students both enjoyed the interview and had a strong sense of accomplishment at the end, however, the assignment was sufficiently challenging, owing to having to produce English for a full hour, that both felt that submitting the Wiki would have been preferable.

On the whole, while only students with very low English levels to start with, demonstrated any significant improvement in English grammar over the course of keeping the Wiki, entries did become more expressive over time, as students became more accustomed to using English daily. For example, students would include colloquial expressions they had learned, and would use more appropriate vocabulary to describe their experiences.

As of the time of this report, the San Jose program students have not yet returned, therefore their Wiki information cannot be included.

Final Presentations

Upon return the students met once a week to prepare a final presentation.

The first cohort that went were allowed to choose their presentation method, as well as whether they would work alone or in small groups (no more than 3). The parameters for the presentation were to identify 3 things that they learned through the program, to describe how those things were learned, to explain why those three things were important, and to predict how those three things would help them in the future. (See appendix for guidelines). Examples of things students say they learned were: the importance of both having and expressing an opinion; that English is actually useful and practical, not to be afraid of

making mistakes; that being open to new experiences creates opportunities; that their graduate studies have practical application in the real world. They made Power Point or MP4 videos, using photos they'd taken throughout their trip, and either narrated their video or gave live presentations. The videos were quite dynamic, with background music, and presented the study abroad program content in ways that staff could not. The presentations were held at the end of October in order to give students time to fully prepare, and to kick off recruitment for the following year. Although the presentations were dynamic and varied, the number of variables which differed between each presentation made it difficult for teaching staff to agree on evaluation criteria, so for the next cohort, students were given less freedom to choose their presentation platform, and were required to give individual presentations.

In the second year of the program there were 4 separate overseas study programs: California, New York, North Dakota and San Jose, CA. As of the time of this report, the San Jose program students have not yet returned, therefore their presentation information cannot be included. The New York and North Dakota programs were run concurrently, so their presentation schedule was the same. The California program was the first to end.

Upon return, students participating in the California program prepared a presentation to be given at the First Annual Graduate School of Science and Engineering Global Professional Symposium. They were given the assignment details two weeks before departing from California. (See appendix for guidelines). Since the symposium was held only a week after return, the presentations were limited to PowerPoint (English) while the students could choose whether to present in English or Japanese. Students were not given the option to present in pairs or groups. Several students attempted to use some English in their oral presentation, but only two students gave the whole presentation in English. Two weeks later, students repeated their presentations in English, for evaluation. At that time the audience was made up of fellow participants, and teachers. In this more personal setting, students were nervous, but performed well. Interestingly, although most students commented in their Wikis about how they thought the American style of lessons with active participation was important, when asked to respond to their peers' presentations with questions or comments, the students were still reluctant to speak. However, it was noted that when they were called upon, their responses and questions were better formed than those of students in general English presentation classes for Engineering students.

The New York/North Dakota group returned to Japan a month after the Global Professional Symposium, and therefore had no chance to see the California students' presentations. Due to obligations related to internal funding, students needed to create a proposal for development of the Kimotsuki area in Kagoshima, based on their overseas experience. This they did quite admirably, and gave a presentation in late November to the Mayor of Kimotsuki, in Japanese. For their evaluation, students were allowed to use the content from their proposal, but were also asked to cover the topics in the guidelines set for the California students. This presentation was held a week after the presentation to the Mayor of Kimotsuki, and was open to any students interested in studying abroad. In addition to two interested students, lab mates of the participants also attended, as did the Dean of the Graduate School. The quality of presentations was much more varied than the California program participants'. It is difficult to say whether this was due to the duration, location, content, support, or other factors which varied between the programs. Due to the degree of variation, it is also difficult to clearly identify improvements in either English ability or confidence using English, however it is felt that the presentations given were of greater quality than the students would have been capable of prior to participating in the overseas study program.

Other Considerations

As the language schools issue report cards reflecting student attendance and accomplishment, it would be useful to include this information in the evaluation process. In addition, supervisors at the volunteer work placements often commented on student language ability, and it would be useful to take this feedback into account. Indeed, where students scored low on one section of the course evaluation, these two documents were taken into consideration when conducting the final evaluation. In light of the evidence presented above, the 2017 iteration of the course will be adjusted to meet the needs of the next cohort. In particular, the content of pre-departure language training will be reconsidered.

GOES Film Festival

Playing: October 2_ ( )

Your Movie will:

Identify
The 3 most important things you learned during GOES.

Explain
How you learned those 3 important things.

Say Why
You think those 3 things are important.

Tell us how
those 3 important things will help you in the future.

Media

Option A: Use i-Movie or Moviemaker etc. to combine stills, video and audio.

Option B: Use Power Point to make a slideshow. Add audio recordings using the speaker button. Add video if you want to.

Language

- All audio for your movie must be English.
- You can add Japanese subtitles if you want to.
- You can introduce your movie in either Japanese or English.

Presentation Time

- *You can work alone, in pairs or in 3's, but please work with the people who were in the same location as you*
- Introduction: 1~2 minutes
- Movie/Slideshow: 1 人= 5-8min, 2 人= 8-12min, 3 人= 12-15min
- Q/A Time: 3~5 minutes

Production Schedule

Sept. 30: Meet, make groups, identify 3 important things you learned about.

Oct._____: Choose your pictures and videos and make a storyboard.

Oct. ____: Meet, show your storyboard, start writing your script.

Oct. _____: Write movie/slideshow script

Oct. ____: Meet, get your script checked.

Oct. _____: Make movie & recording.

Oct: ____: Screen movie/slideshow, prepare introduction.

Oct. _____: Practice film introduction, fix any problems.

Oct. ____: Presentation

Appendix:

Symposium Presentation Guidelines

Date: Monday Sept. 26, 2016
Place: Inamori Auditorium
Time: 9:30 ~ 10:45: Kotaro, Jiro, Tadashi, Tomo, Raika, Kazuaki
11:00 ~ 11:50: Yuki, Eri, Yoshito, Machi, Yosuke

Presentation Type: You can use Power Point, or you can make a photo slideshow using any app, or you can make a video.

Presentation Length: You need to talk for about 10 minutes.

Presentation Language: You can present in English or Japanese. It's up to you.

Presentation Content: You need to tell us about your internship, in detail. Talk about where you did your internship. Tell us about the company. Tell us about the people you worked with. Tell us about all the things you did. Tell us what was difficult. Tell us what was great. Tell us the main point that you learned by doing the internship.

Presentation Style: In California, at language school, you learned 'don't be shy, don't be afraid'. Don't tell us about language school, BUT use the skills you learned there to do your presentation. Please don't make a Japanese-style presentation. Make a California-style presentation! (Even if you do your presentation using Japanese language, do California style.)

** You won't get a score for this presentation. Later you will do another presentation to get a score. This presentation will be the seeds and roots for the later presentation.